
令和5年 第1回(定例)日出町議会会議録(第3日)

令和5年3月3日(金曜日)

議事日程(第3号)

令和5年3月3日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

出席議員(16名)

| | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 1番 | 多田 利浩君 | 2番 | 阿部 峰子君 |
| 3番 | 河野 美華君 | 4番 | 岡山 栄蔵君 |
| 5番 | 豊岡 健太君 | 6番 | 安部 徹也君 |
| 7番 | 衛藤 清隆君 | 8番 | 阿部 真二君 |
| 9番 | 上野 満君 | 10番 | 金元 正生君 |
| 11番 | 川西 求一君 | 12番 | 岩尾 幸六君 |
| 13番 | 池田 淳子君 | 14番 | 森 昭人君 |
| 15番 | 熊谷 健作君 | 16番 | 工藤 健次君 |

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

| | | | |
|----|--------|----|--------|
| 局長 | 河野 匡位君 | 次長 | 河野 裕治君 |
|----|--------|----|--------|

説明のため出席した者の職氏名

| | | | | | |
|-----------|-------|--------|-------------------|-------|--------|
| 町長 | …………… | 本田 博文君 | 副町長 | …………… | 一丸 淳司君 |
| 教育長 | …………… | 恒川 英志君 | 会計管理者兼会計課長 | … | 佐藤小百合君 |
| 総務課長 | …………… | 帯刀 志朗君 | 財政課長 | …………… | 白水 順一君 |
| 政策企画課長 | …………… | 梶原 新三君 | まちづくり推進課長 | … | 藤本 周司君 |
| 税務課長 | …………… | 河野 英樹君 | 住民生活課長 | …………… | 伊豆田政克君 |
| 介護福祉課長 | …………… | 山口 佳子君 | 子育て支援課長 | …………… | 安田 恵君 |
| 農林水産課長 | …………… | 河野 一利君 | 都市建設課長 | …………… | 須藤 淳司君 |
| 上下水道課長 | …………… | 阿南 次郎君 | 教育総務課長兼学校給食センター所長 | … | 古屋秀一郎君 |
| 学校教育課長 | …………… | 稗田 健治君 | 社会教育課長兼町立図書館長 | … | 後藤 良彦君 |
| 代表監査委員 | …………… | 井上 哲治君 | 監査事務局長 | …………… | 工藤 明美君 |
| 農業委員会事務局長 | … | 宇都宮 博君 | 総務課参事兼危機管理室長 | … | 後藤 将児君 |
| 総務課課長補佐 | …………… | 赤野 公彦君 | 財政課課長補佐 | …………… | 間部 大君 |
| 健康増進課課長補佐 | … | 堀 雅之君 | 総務課係長 | …………… | 松本 真二君 |
| 財政課係長 | …………… | 衛藤 真一君 | | | |

午前10時00分開議

○議長（工藤 健次君） 皆さん、おはようございます。昨日に引き続き御苦労さまです。

開議の宣告

○議長（工藤 健次君） ただいまの出席議員は16名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

日程第1. 一般質問

○議長（工藤 健次君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

13番、池田淳子君。池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 皆さん、おはようございます。13番、公明党の池田淳子です。通告に従いまして一般質問を行います。

まず、死亡後の手続に係る行政サービスについてお聞きいたします。

身内の方が亡くなったとき、御遺族は様々な対応に追われます。お通夜や葬儀、会場の決定から何人くらいのか——今家族葬が多くなっていますが、何人くらいの方が参列されるのかなど

の打合わせに続き、悲しむ間などないのが現状であります。その後は福祉や税に係る多くの手続を行わなければなりません。

そこでお聞きいたします。一人の方が亡くなった際に、役場での手続はどのようなものがありますか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長、伊豆田政克君。

○住民生活課長（伊豆田政克君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

一人の方が亡くなった際の役場での手続ですが、まず、住民生活課での死亡の届出、火葬の手続があります。これはほとんどの場合、葬儀社が代理で手続をいたします。

御遺族の方の手続といたしましては、未支給年金請求、遺族年金請求等の年金に関すること、国民健康保険や後期高齢者医療に加入している方は資格喪失届、葬祭費の申請など、介護保険や障がいのある方に関する手続、税の納付書の送付先等に関する手続、水道の名義変更や閉栓の手続、町営住宅に入居の方は、退居・入居承継の手続等があります。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 今お聞きしただけでも、かなり多くの手続が必要となりますけれども、この手続をスムーズに行った場合、所要時間はどのくらいかかりますでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） お答えいたします。

所要時間は人それぞれ必要な手続が異なりますが、一つの手続は大体数分から長くかかる手続で20分程度と思われれます。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） トータル時間をお聞きしたかったんですけども、分かりますか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） 人それぞれ手続するものが違いますので、一概には言えないんですけども、基本的にはこちらの感覚としては大体1時間はかからずにはできているんじゃないかと考えております。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 全部の手続が1時間で終わりますか。——あ、いいです。

手続に関して、日出町ではどのようなサービスを行っているのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） お答えいたします。

日出町では、遺族の方の手續に役立てていただきますように、住民生活課の窓口や葬儀社等を通じて、おくやみハンドブックという冊子をお渡ししております。死亡に関連して生じる役場内での手續のほか、役場以外で行う手續も掲載しております。御遺族の方がおくやみハンドブックを持って窓口に見えられますので、お話を伺って、必要な手續、窓口等を案内しております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 死亡に関する手續かなり煩雑で、御遺族は悲しみの中で、またそのような中での手續になるかと思えますけども、今死亡に関する手續を案内する窓口をおくやみコーナーとして設置し、手續の簡素化を図る自治体が増えております。

以前、先輩議員が平成29年の第3回の定例会で、おくやみコーナーの創設をということで質問されておりますが、そのおくやみコーナーと言えば別府市が発祥というふうにお聞きしていますが、日出町で今サービスを行っていただいているおくやみハンドブック、これはそのときの質問を受けてからおくやみハンドブックのサービスが始まったというふうにご認識してよいですか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） おくやみハンドブック、今ちょっと正確にはいつ始めたかは覚えておりませんが、それ以前からおくやみハンドブックは使用していたと思います。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 先輩議員が質問した際にも別府市の取組について説明をして述べられていらっしゃいましたが、当時この執行部の方で、この議場にいらっしゃったのが、たしか帯刀総務課長が課長補佐として、町長はいらっしゃいましたので、重ねてになりますけどおくやみコーナー、別府市の取組についてお話をさせていただきたいと思います。

まず、おくやみコーナーに来庁した御遺族は、お客様シートというシートに必要事項を記入し、おくやみコーナーの職員が共通様式内の入力シートに、お客様シートの記載内容を入力すると、各届出書が自動作成されるそうです。御遺族は最初に必要事項を記入するだけで、あとは必要なもの、印鑑とか身分証明書とかを一つの袋に入れて各コーナーから各課を回るか、もしくは各職員が来ていただけるワンストップの方法か、御自分でどちらかを選択することができるそうです。

その際の所要時間は、御自分で各課を回る場合でも1時間半程度ということをお聞きしております。ワンストップの場合はもう少し時間がかかるので、自分で各課を回るほうを選ぶ方が多いということでした。

成果としては、電話での問合せでも、たらい回しが解消され、御遺族の心理的負担の軽減、届出書の作成の負担軽減となり、市民の方の満足度が上がったとおっしゃってございました。

また、関係課窓口の業務が効率的になることによって、職員の方の負担軽減にもつながってい

るとのことでした。全国から別府市への視察や問い合わせが延べ200件を超えるとのことでした。

設置までの経緯は、若手職員11名を中心とするプロジェクトチームが結成され、幾つかのプロジェクトのうちの一つがこの窓口プロジェクトだったそうです。全てのワンストップ窓口の検討も行われたそうですが、それには巨額のシステム改修を行う必要があることから、庁舎の構造的な問題を鑑み、対象者を死亡に伴う御遺族に絞り、業務改善を行うことにしたそうです。死亡後の手続は特別な手続だからこそ、市民の心に寄り添いたいとの思いでありますと言っておられました。そのおくやみコーナーにもお花も飾られているとのことでした。ちょっとした心遣いが非常にすばらしいなと思った次第です。

平成28年4月より実務を開始し、同年5月16日におくやみコーナーを開設していますが、市長公約のたらい回し禁止の解消を目的とすることもあり、トップダウンの事業として認識が関係課にもあったと担当課長がおっしゃっておられました。こうしたことを考えて日出町でも、おくやみコーナーを設置する考えはありませんでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長、梶原新三君。

○政策企画課長（梶原 新三君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

デジタル戦略を同課も推進しておりますので、後のお答えにもありますが、自治体の総合窓口DX、書かない窓口にも関係してくるところでございますが、今、デジタル庁が推進する書かないワンストップ窓口の設置に関しましては、当課としても必要であることは理解しております。現在行っておりますワンストップ窓口の検討の中で、おくやみコーナーの設置についても考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 先輩議員が質問したのは5年ちょっと前の話で、その際の町長の答弁は、「おくやみコーナーがどういったものなのか、どういった形のサービスを提供しているのか、その辺を情報収集した中で、もし当町でするのであれば、どういった形で同じようなことができるか、ちょっと研究をしてみたいと思っております」というものでした。町長にお尋ねします。どのような研究をされましたでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 当時、確かにそういうふうにご答弁いたしました。日出町、亡くなる方が300人ちょっと。1日にすると大体1人ですね、平均すると。数量的にその程度の対象者というところで、あえておくやみコーナーまでつくるところが効率的かどうかというところを検討した結果、今日に至っておりますけども。

ただ、今政策企画課長がお答え申し上げましたけども、なぜ今そういうふうになったかと申し

上げますと、昨年のデジタル田園都市構想、国が始める中で窓口のDX SaaS、これが国のほうで進められています。これは何かと言うと、役場の中にあるいろんな届出のシステム、システムというか情報ですね、これが連携できるようになる。このDX SaaSの中で必要な手順を示してくれる機能等ができる。それから申請書作成機能ができるといったところで、これを活用すれば我が町、対象件数が少なくても効率的な届出をしていただけるんじゃないかというところで、この書かない窓口の取組の中でやっていこうと思ったところです。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 効率的というのは職員の皆様にとってだと思んですけど、これ私も町民の方から苦言と言いますか御相談を頂きました。親御さんが亡くなって手続をするのに、いろんな課を回って同じようなことを書かないといけないということなんです、手続自体が。町民の方の負担軽減という観点では、亡くなる方が例え1日に1人、2人であっても、そういった町民の方に寄り添った形での施策としてやっていただいてもいいんじゃないのかなというふうに思っています。

後ほど私も質問しますが、書かない窓口、それが今からデジタル戦略でやっていかれるんでしょう、DXも進んでいくと思いますけども、恐らくシステム改修費なんかもすごく多額な予算がかかってくるんじゃないのかなというふうに思います。それをどうされるのかは、後で教えていただけるのかな。

ですけども、今回感心したのは別府市のおくやみコーナー、システム改修費はゼロということでした。というのが、職員の方が、エクセルを利用して入力シート、この項目は、この届出書のここに反映されるという関数入力で作くり上げたそうなんです。これもまたすばらしいと思うんですけども、それで、もしシステムが必要なら無料でお渡ししますと、いつでも言ってくださいということでありましたので、その辺はまた御相談を頂いたらいいかなというふうに思います。

ですから、今予算がかからないというふうに申し上げましたけども、多少の予算はかかるでしょうけども、そのシステム改修にかかる予算については、かかりません。

また、住民の方からは、これ間違いなく喜ばれると思います。業務の効率化によっては、職員の方の負担軽減もなされるわけですけども、やらない理由があるのかなというふうに思うんですが、町長いかがですか。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 窓口というからには、職員が1人なり2人なりずっといておかなければいけないというところがあるんです。今申し上げたように、1日1組程度のために職員をそこに1人なり2人なり常駐させておくということと、おっしゃるように住民サービスの向上のバランスを考えたときに、やっぱりなかなかそれは難しいなというところなんです。

やればもちろん住民サービスが向上することは分かるんですね。でも1日に1組来るか来ないかあるいは2組来る日もあるでしょう。でも、そのためになかなか職員を1名なり2名なり、そこに常駐させておくというのは、別府市とは人口の規模が違いますから、恐らく亡くなる方の数も随分違うと思うんですね。

だから、そういった効率化を進めるときに、対象がどのくらいの数あるか、それを見ながらそういう新しい組織というか設置も考えていかないと、限られた職員数の中でいろんな事務をやっていますので、そこだけに例えば2人措置したときには、ほかの事務がなかなかうまく進まなくなるというところもありまして、そういう考え方の下でこれまで来ているということです。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） だったら、なおさら住民生活課なりに併設で構わないんじゃないかなと思いますけど、別府市は会計年度任用職員を3名置いておられるそうです。会計年度任用職員ですので16日勤務ですよ。そこで1人しか勤務してない日もあるし、2人という日もあるそうですけど、どうしても手が足りないときは各担当課からの応援も入れてやっているということでした。日出町が1日1組であるならば、なおさら、常駐じゃなくて担当課の中で誰か1人併用でできる職員を置いても全然構わないと私は思います。

申し訳ないんですけど、1階役場の入り口に再任用の職員置いていただいていますけど、それこそもったいないとか言い方したら悪いですね（笑声）もっと能力を発揮した雇用の仕方があるんじゃないのかなと私は思いますけど、町長いかがですか。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 役場の案内窓口に職員を置いたのは、役場に来たときにどこに行ったらいいか分かりにくいという声があった。それを受けて職員を配置したんです。能力を発揮していないように見えるかもしれませんが、報告見るといろいろなお問合わせが——お問合わせというか、あそこで相談を頂いております。役場の中の案内だとか、いろんな相談先の話だとか。

それこそ珍しい例では、自動車の仮ナンバーの申請、あれは市しかやってないんですけど、そういうところの相談等も受けて、それは窓口案内としては、私はしっかり機能していると、役場に見えた方の御不満というか、そこらには応えきれていると私は思っています。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 決して能力がどうこうじゃなくて、もっと能力を発揮できる配置先があるのではないかなというふうに思ったんですけど、今、御相談内容とか結構込み入ったことがあって、経験がある方のほうが適任だろうということで、町長は置かれているというふうに認識をいたしましたけれど、それでいいんですかね。はい、了解しました。

おくやみコーナーについては、やっぱり町民の方への住民サービスとして、また職員の方の負

担軽減としてでもちょっと考えていただきたいなというふうには思っております。

それでは、次の質問に移ります。自治体窓口DXについてです。

デジタル技術の進展によりまして、住民サービスのデジタル化が期待され、これから本格的に取り組むことになるのだらうなというふうには思っております。

総務省のホームページには、自治体の行政手続のオンライン化について、国と自治体が協力して原則全自治体で、特に国民の利便性向上に資する手続について、マイナポータルからマイナンバーカードを用いてオンライン手続を可能にするとともに、それ以外の各種行政手続についても、地方公共団体におけるオンライン利用促進指針を踏まえ、積極的にオンライン化を進めることが必要となります。とあります。

書かない窓口とは、職員がお客様から住所、氏名、生年月日などの情報や申請内容を聞き取りし、窓口業務支援システムへ入力を行い、申請書の作成を支援するものです。既に複数の自治体で窓口DXが進み始めているようですが、日出町の現在の状況をお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

現状は3年ぐらい、もう少し前、押印を極力減らして文書管理にて決裁等を行っております。これはDXを進めるために、書かない窓口を推進するための準備というところがございます。

それから、RPA等の導入によって業務改善を進めているところです。これも書かない窓口への準備だと思っております。

今後は窓口に来なくても、各種手続が済むように、先ほど議員のおっしゃったようなマイナンバーカードを使って、マイナポータルで電子申請を行う、いわゆるぴったりサービス等で児童手当の現況届などの手続ができる26業務に関して今年度中に準備を行う予定にしております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 26事業ということですが、委員会での説明でも、窓口に来なくても申請手続ができるようにということで進められているという説明を何度か受けてきましたので、恐らく今後はRPAを活用したデジタル化が加速度的に進んでいくんだらうなというふうには思っております。

他の自治体に遅れを取ってはならないと思いますけども、今後の予定を教えてください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

議員御指摘のとおり全国の自治体で、書かない、待たない、回らないのワンストップの窓口が始まっております。

日出町においても、窓口の誰一人取り残されない人に優しいデジタル化の実現を目指して取組の検討を行っております。具体的には、住民の皆様様の利便性の向上、行政手続の効率化を目指してマイナンバーカードの取得促進を行い、先ほど申しましたように電子申請が可能な手続の拡大により、まずは役場に行かなくても済むように取組を行っております。

窓口DXについては、BPR、業務改善ですけれども、中で検討を進めておりまして、先ほどの御質問でありましたようなおくやみコーナーに関しましても、私どもも別府のほう見に行きました。関数でできる、お金をかけないものはかけない。今後でも、ほかの手続でかけるものはかけないとならないとは思っておりますが、DXを活用して1か所の窓口で亡くなった方への名前等を確認させていただき、必要な手続等を洗い直し、必要な書類を提示させた後、担当課を順番に回っていくなどの方法を検討しております。

また、若手職員のDX推進部会による窓口業務改善に向けた検討会等も行っております。その中で提案された窓口申請支援システムなどの導入なども検討するなど、様々な観点から総合窓口の在り方を検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 戦略的に進んでいくんだらうなというふうにお聞きして安心しました。

デジタル田園都市構想で、北海道の北見市が取組を開始しています。ちょっと前のことになるかもしれませんが、先ほどの質問と関係しますが、ワンストップ窓口も実現可能となっております。何と、おくやみ関係の手続もそれで始めた。予約不要のワンストップ対応を実現しているとのこと。そのほか多数の自治体でも、書かない窓口を始めたと載っております。

何か事業を始めるには予算が伴いますけれども、デジタル田園都市国家構想の実現に向け、強力に推進するためのデジタル田園都市国家構想交付金というのがあります。

ごめんなさい、釈迦に説法かもしれませんが、令和4年度の2次補正予算額が800億円だったと思います。5年度は、今度予算が通過するのでしょうか、概算要求額でいきますと1,270億円となっているようですけれども、本国会で予算が成立したら、この交付金の活用はできるのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

本町におきましても、そういった交付金等は極力取りにいくようにしておりますし、今回もやっていると申しますか、使うようにしております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 先般、石川県の加賀市にDXの取組について、梶原課長も同行いただいて視察に行かせていただきました。委員長報告でも述べましたけども、加賀市は国の交付金をフルに活用して事業を進めていました。実証実験も行っていただけのことでした。加賀市のようなJAXAを招いてとかJAXAに関係するとか、そんな大きな事業をしなくても構いませんけど、住民の利便性向上を達成するために小さなことから始めていただけたらいいなというふうに思っております。

では、防災対策についての質問に移ります。

1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災、また2016年の熊本地震と大きな地震に見舞われた惨状は、いまだ忘れることはできません。最近では、トルコ・シリア大地震も発生し、東日本大震災を上回る犠牲者が出ています。

今後の予想として、南海トラフ地震もいつ起きてもおかしくないと言われるようになりました。地震だけではなく、近年では豪雨による災害も頻発しています。情報化社会となり、災害の予報についても、いち早く情報を得ることができるようにはなりましたが、やはり日頃からの備えが重要だと思っております。

日出町でも3月5日、今度の日曜日ですが、全町一斉避難訓練が実施されます。災害対策基本法に基づき、町民の生命、身体、財産を災害から保護するため、防災関係機関の連絡調整、総合的計画的な防災行政を行うため、日出町防災会議が設置されていると思っておりますが、この会議の開催サイクルはどうなっていますでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長、後藤将児君。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） 池田議員の質問にお答えをいたします。

市町村防災会議の開催サイクルを明確に規定したものではありませんが、日出町防災会議はこれまで日出町地域防災計画の策定とその修正の都度、開催をしております。平成24年以降は3年ごとに開催をしてきましたが、本年2月27日に開催いたしました防災会議は、重要な修正事項等が多かったことから2年ぶりの開催となっております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） この会議にはどのような方が参加されますか。構成人員を教えてください。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） お答えをいたします。

防災会議の委員は、日出町防災会議条例において規定されている各行政機関、警察、消防、自

衛隊等の職員、また学識経験者などの中から委嘱することとなっており、現在26名の委員で構成されています。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 会長は首長ということでよろしいですね。はい。男女共同参画の観点から、地方防災会議には女性の割合は一応3割というふうに目標指針されていると思いますけども、それは達成できていますか。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） お答えをいたします。

議員がおっしゃるように、第5次男女共同参画基本計画では、2025年までに地方防災会議における女性委員比率30%を目標としています。しかしながら、現時点での女性委員は26名中2名であり、目標は達成できておりません。

今後は委員構成の見直しを検討するとともに、各機関へも女性の登用を働きかけて、防災に関する施策に男女共同参画の視点を積極的に取り入れていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） ゼロではないということで安心はいたしましたけども、地方防災会議では、地方防災計画の作成や実施の推進、災害時の情報収集、各機関の連絡調整、非常災害における緊急措置の計画及び実施の推進を行うことから、女性の参画はなくてはならないと思っております。

2020年の資料で、地方防災会議の委員に占める女性の割合は、都道府県の防災会議の平均が16.1%、市区町村の平均は8.8%と遠く及びません。大分県はと言うと、2019年の資料でありますけれども10.3%となっています。

しかしながら、18市町村のうち2つの自治体で女性委員がゼロということなんですね。その原因としては、構成人員にあると思っております。その職務に就いている方が、今、課長がおっしゃっていただいた消防関係、警察関係、そこから出てくる代表の方たちが男性であることなので、女性の登用が少ないというふうになってしまっているのではないかなというふうに思っております。

それでも弾力的な人選が可能ではないかなというふうに思いますけど、例えば地方行政機関の長、またはその指名する職員とあります。なので、必ずしも長が出てくるのではなく、指名してもらう人を女性にするとかそういう形で、長となるとほとんどの方が男性だと思うので、その指名する職員を女性を指名していただだけませんかということではできないかなというふうに思います。

けども、それはいかがですか。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） お答えをいたします。

先ほども申し上げましたが、やはり各行政機関等の課長なり所長なりということになっておりますので、今後は議員御指摘のように職員の中での女性の登用というところを積極的に働きかけていくことで、少しでも目標に近づけていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 避難所の運営にしても、やっぱり女性の視点というのも欠かせませんし、この間、県の講演会に行ってきたんですけど、やはり思いもよらない避難所での出来事があるんですね。そんな中で男性だけでの視点では、避難所の運営もやはりなかなか難しい、厳しい状況にあるので、ぜひとも女性の登用もできるように努力をしていただきたいと思います。

次に、予測できる災害、例えば台風の接近時にいつ何をするのかをあらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画、マイ・タイムラインを作成するためにホームページからダウンロードできるようになりました。日出町のホームページから県のリンクにアクセスするようになっていますが、今年の2月24日に更新されていて、とても分かりやすくなっていたんですが、それは通告書が出た後に改善をしていただいたというふうに認識していいんでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） お答えをいたします。

マイ・タイムラインは、台風の接近や大雨による風水害等の危険性が高まったときに自分自身が取ら標準的な防災行動を時系列に整理し、まとめたものであり、町としてもその作成を推奨しているところです。

今回、議員から御指摘がありましたので、こういったマイ・タイムラインの様式を県へのリンクではなく町のホームページから直接ダウンロードできるように改善をいたしたところです。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 早速ありがとうございました。見てびっくりしました。

ホームページを見てダウンロードできる人はいいんですけど、そこにデジタルに精通していない方、そういった方たちのために各戸に配布——印刷物ですね、各戸に配布するという考えはないのでしょうか。大事に取っておいてくださいねということをつけ加えて、なんとなく回覧ですと、粗末に扱うというわけじゃないんですけど、必要ないものは処分していきますけど、処分をせずにきちんと取っておいてくださいということをつけ加えて各戸配布するという考えはありませんか。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） マイ・タイムラインの様式等につきましては、現時点で各戸配布というところは考えておりませんが、避難訓練等を通じて、その都度様式を配布し、その場で説明をし記入をしていただくなどということで利用しておりますので、そのほうが効率的かなというふうに考えておりますので、今後もそういった方法で活用してまいりたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 活用していただいているのであれば、それで引き続きお願いしたいと思います。

次に、ペット同行避難所について伺います。

まず、畜犬登録数を教えてください。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） 質問にお答えいたします。

担当課に確認をいたしましたところ、畜犬登録数は2月20日現在で1,605頭となっております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 犬だけでこれだけの数がありますし、ペットと言っても犬だけではもちろんありません。いかなるペットも家族同然です。災害時には恐らく、よほどのやむを得ない事情がない限りペットと一緒に避難をするということが考えられますけども、以前も提案しましたが、豊岡公園が防災公園となることから、ペット同行避難所の機能を持たせてはいかがでしょうかというふうに提案をさせていただきました。

でも今回もそのことについても、提案ですけども、普段からしつけやマナーについて学べるイベントなどを行うなどして、公園の利活用にも加え災害に対する啓発も行えると思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 都市建設課長、須藤淳司君。

○都市建設課長（須藤 淳司君） それでは、お答えいたします。

昨日もお答えいたしました、豊岡公園についてまだ今、事業も途中でございまして、とりあえず令和7年度まで園内道路、駐車場、多目的広場を必ず工事を終わらせるというところに全力を注いでおります。

議員がおっしゃいましたペットの活用についてはまだ、全くいろんな管理の運営方法とかそう

いったものはまだ決まっておりませんので、そこは防災公園としての機能を必ず活用しないといけません、その中で考えていく一つではないかと思えます。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 提案はさせていただきます。よろしくお願いします。

最後の質問です。避難行動要支援者の個別避難計画の進捗状況を教えてください。

○議長（工藤 健次君） 介護福祉課長、山口佳子君。

○介護福祉課長（山口 佳子君） 池田議員の質問にお答えいたします。

個別避難計画の進捗状況についてでございますけれども、本年度より日出町のハザードマップの危険箇所が多い地区から順に、希望する避難行動要支援者ごとに個別避難計画の作成を進めることとしております。

本年度、今月しかありませんけれども、令和4年度に豊岡から作成を開始し、令和5年度については大神地区と藤原、そして南端、令和6年度は日出地区、川崎地区というふうに着手を進めていくスケジュールを組んでいるところでございます。

今現在、豊岡地区において、計画作成同意をされている49名の方に対して、区長さんとかを通じて避難計画の協力員であるとか、避難経路だとかいう形の支援計画をお願いしているところ

です。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） やっと進み始めたのかなという感覚なんです。なかなか進まない理由は何でしょう。

○議長（工藤 健次君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（山口 佳子君） お答えいたします。

課の中でもいろいろと話しているところなんですけれども、原因の一つとしては、地域の高齢化により避難する際の協力員の方の不足というのがまず上げられるのではないかなとは思っています。昼間また働いている人がいらっしゃるために、昼間も災害が起きたときに協力員をどうするかという話ができないところというのもあるかなとも思っておりますし、要支援者側の同意もなかなか得にくいという現状もございます。

今後、災害の種類による地区の優先順位であるとか、効率的な進め方について再度検討してまいりたいと今思っているところです。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 今、なかなか同意が得られないこともありますし、昼間働いている人が多い、また高齢化等の問題もあるというふうに答弁頂きましたけど、地域コミュニティーがないとこれは本当に難しいことなんだろうなというふうに認識しております。隣にどんな人が住んでいるか知らないなんてことはないでしょうけども、それに近い状況があるとしたらなかなか進まないのかなというふうにも思っています。

この避難計画は、何年かごとに作成するものですか、それとも対象者が増えたり変更があったりすると、その都度作成するのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（山口 佳子君） お答えいたします。

計画については、対象者が増えればその都度、その方に同意を得た上で計画を立てていく。亡くなったり転出されたりということであれば、また減していくという形で、毎年見直しを行っていくように計画はしております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） いろんな課題がある中で進めていかななくてはいけない事業ですけども、確かに細かな担当は、全般的な担当は介護福祉課だと思うんですけども、この避難行動要支援者個別避難計画については、課を往断して危機管理室と住民生活課かな、取り組んでいかなければいけない事業ではないかなというふうに思っておりますけども、危機管理室長はこの今の進捗状況を把握していますか。

○議長（工藤 健次君） 危機管理室長。

○総務課参事兼危機管理室長（後藤 将児君） 質問にお答えをいたします。

進捗状況については都度、介護福祉課のほうから聞いておりますけども、確かに議員おっしゃるように進捗状況があまりよくないというような話も聞いております。防災に関することになりますので介護福祉課に全て任せるのではなく、これからも必要な協力は危機管理室としても取ってきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） ほかの課で協力、協力できるというか関係あるという課は、どの課が考えられますか、総務課長。

○議長（工藤 健次君） 総務課長、帯刀志朗君。

○総務課長（帯刀 志朗君） 先ほどから聞いております行政主導ではなかなか進みにくいというところがございますので、当然防災士さん、それから各区長さんの方々の協力を得なければな

なか進まないと思っておりますので、それに関わる担当課がこれから協力していく必要があるのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 町長はこの進捗状況を把握しておられますか。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 進捗状況はもちろん把握しております。はかばかしくないというところが大きな課題だというふうに思っておりますので、先ほど豊岡地区での計画作成に同意されたのが49名というところで、計画をつくりたいという人も少ないというところがまず課題。それから協力員がなかなか見つからないというところが課題。

常々このことは議論しているんですけど、今のところハザードマップ上の危険箇所が多い地区からやっ払いこうと、そのことの進め方としてはよかったと思うんですけど、なかなか危機感を持ってもらえないところが、この同意者の、同意される方が増えていかないというところがあるんじゃないかというところですね。

さっき介護福祉課長が災害の種類による地区の優先順位と申しあげましたけども、予測できる災害と予測できない災害を分けて、予測できない災害のほうから取り組んでいったらいいんじゃないかというところで、津波が懸念される地域、豊岡地区とかそういう分け方じゃなくて津波危険地域、そこからまず始めていったらいいんじゃないかと。その次は大雨のときに土砂災害が心配される地域ですね。そういう順番で進めていけば、つくりたいという人も多いんじゃないかと思うし、地域ももちろん危機感を持っておられるでしょうから、協力も得られるんじゃないかなというところを職員と議論しているところです。

だから、そういった取組方を変えていったらどうかということは今思っているところです。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 要望のある方が、人数が何人いないとつukれないというものではないと思うんですけど、同意を取れた方から順番にやっ払いいったらいいんじゃないのかと思うので、今の町長の話の聞いていると、数が増えないからなかなか進まないというふうに受け取りましたけど、決してそうではないと思うんですけど、きちんと同意を取れた方から順番につくってあげればいいと思っています。

また、昼間働いていらっしゃる方が多い、確かにそうなんですけども、夜、被災するのはどこで被災するかも分かりませんし、災害に出合うのは。だから、そういったいろんな想定が必要でしょうけども、まず基本的なところからの取組というのは進めていっていただきたいと思います。

今、町長が思いを述べていただきましたけど、その思いというのは担当課に伝わっていますか。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 私に聞いたようですので、それは伝わったかどうかは、担当課の方から回答させます。

○議長（工藤 健次君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（山口 佳子君） お答えさせていただきます。

町長は、避難計画をできるだけ早く進めるようにというのは十分いつも言われていることですので、私のほうには十分その思いが伝わっております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 池田淳子君。

○議員（13番 池田 淳子君） 思いは伝わっているんですが、今具体的な方法とか、るる述べていただきました。そういったことがまた柔軟に話をできて、皆さんの思いをきちんと話し合った上で、いち早くとは申しませんが、きちんと機能的なものを各課横断で作成していただくようにお願いしたいと思います。

以上で一般質問を終わります。

.....

○議長（工藤 健次君） お諮りします。コロナ対策のため、本会場の換気を行いたいと思いますので、ここで10分間休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 健次君） 異議なしと認めます。したがって、10分間休憩し、11時より再開します。

午前10時51分休憩

.....

午前11時00分再開

○議長（工藤 健次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。1番、多田利浩君。多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） 1番、多田利浩です。よろしくお願いいたします。

1年がたつのは本当に早いものです。1年前のこの時期は、町議会議員選挙の準備に追われていました。議員の役割は、町民の声を町へ届けること、安心・安全なまちづくりのために提案を行う。町執行部のチェックをすることだと、そのほか多岐にわたりますが、そういう仕事をやることだと思っております。

冒頭で苦言を呈して申し訳ないんですが、前回12月の定例会で「多田議員には毎度厳しい御

指摘ありがとうございます」という町長の答弁がございました。私自身は厳しい指摘をしているという認識はございません。執行部のチェックをして、そのことに基づいた指摘でございます。

議会のこの模様は、日出町議会YouTube放送局でノーカットで視聴することができます。また、インターネットで議事録を見ることもできます。この動画を御覧になった町民から、町長のこの発言はいかがなものかという御指摘がございました。答弁での発言には十分御注意いただきたいと存じます。

私にとって4回目の一般質問を始めます。日出町の企業誘致についてです。

2月14日に大分県が公表した人口推計では、死亡が出生を上回る自然減に歯止めがかからず、過去最多の8,848人を記録しました。しかし、転入が転出を上回る社会増はつくり出すことができます。社会増で自然減に少しでも歯止めをかけることができると考えます。

日出町の人口は、この10年で見ると、2013年の2万8,806人をピークに減少していき、今年の1月1日現在、これは住民基本台帳によるものですが2万8,115人、およそ700人減少しています。

日出町人口ビジョン改訂版、こういった資料があるんですが、人口ビジョン改訂版2021年6月、これは日出町の創生推進本部が出したものです。これによると、国立社会保障人口問題研究所が公表した推計では、日本の総人口は昨年1月現在、およそ1億2,600万人、これがおよそ40年後の2060年には9,300万人まで減少するとされています。およそ3,300万人の減少です。この推計において、日出町は2040年、およそこれから17年後ですが2万4,230人になると推計が出されております。4千人の人口が減少するということです。

こういった予測の中で何とか人口を確保するために、これは人口の確保というのは税収の確保にもつながるんですが、社会増をつくり出すためには企業誘致、これは必須です。日出町として今後、どのような取組を行いますか、お考えをお聞かせください。

答弁では、ぜひ明確な答弁をお願いいたします。曖昧な返答、歯切れが悪い、抽象的、結果は尻切れトンぼであるという御指摘を町民から頂いております。よろしくをお願いいたします。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長、藤本周司君。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 多田利浩議員の御質問にお答えいたします。

本年度、東京、大阪及び名古屋の企業を訪問し、昨年度まではできなかった行動ができつつあると感じております。加えて企業に向けてDMも近々発送する予定でございます。今後も企業訪問に積極的に取り組んでまいります。

また、町内企業の存続や発展も大切でございますので、訪問を行い現状把握や相談しやすい環境づくりに努めてまいります。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） 藤本課長、ありがとうございます。藤本課長は以前に、企業誘致のほかに創業、日出町で会社を起こすことにも力を入れていきたいというお話がございましたが、それについてはいかがでしょうか。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 創業につきましては、現在商工会と協力して創業スクールの開催等行っております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） 企業誘致も大切なのですが、外から来た企業の場合、一番おいしい部分は本社がある場所に持っていかれてしまうということがございますので、ぜひ日出町での起業、創業、これの推進を。会社を興してから会社が大きくなるまで時間がかかるかもしれませんが、そこはじっくりと構えてやることだと思いますし、ぜひ町としても商工会とタッグを組んで行っていただきたいと思います。

今日は執行部の皆さんにはタブレット、議員の皆さんにはタブレット、傍聴の皆さんには資料を配付していただいております。

この50年で婚姻組数は半減しています。1972年、昭和47年の109万組から、およそ50年たった現在、2020年、令和2年には52万組へと半減しています。

完結出生児数、これは結婚持続期間が15年から19年の夫婦の平均出生子供数、大体これは最終的な夫婦の出生子供数と見なされているそうですが、婚姻組数がピークだった昭和47年、1972年には2.2人。最新のデータは2015年のものなのですが、平成27年、1.94人です。ですから、夫婦から生まれてくる子供の数で、そんなに変わってないんですね。ですが、婚姻数が減っていることから、これ一昨日の報道でしたが、出生数は80万人を割りました。婚姻組数が半減すれば、それに伴い生まれてくる子供の数は減少します。

婚姻組数が減少したのは、いろんな要因がありますが、大きな原因として考えられるのは結婚を望んでも結婚できない、経済的な事情によるものが大きいと考えます。20代から30代の皆さんの中で、正規雇用と非正規雇用の格差が広がっています。さきの新聞の見出しには、出産をためらう非正規雇用、正社員に比べ重い経済的負担、こういった見出しが出ていて非常に苦しい感じを受けます。

よくある合計特殊出生率というのが出てくるんですが、これは女性全体の既婚、未婚を問わない、全女性の年齢別出生率を合計したもので、これだと出生率はすごく低くなって1.3ぐらいになってしまうんですね。ですから、私は今回は完結出生児数のほうを上げたんですが、よく統

計なんかに出てくるのは合計特殊出生率ですね。

こういった話をすると必ず子育て支援の話が出てくるんですが、どこの最近自治体も子育て支援を政策の上位に挙げています。子育て支援というものは、結婚から出産ができるという条件が整った方への施策です。婚姻組数が激減している現在の状況では、日出町の未来を考えると、安心して結婚できる環境を整備することが最優先だと思っています。これは、昨日安部徹也議員が質問された移住促進についても同様ですね。やっぱり環境整備ということが大事だと思います。

その環境整備の一つとしては、企業誘致による一定レベルの賃金を伴う安定した職業の確保。2つ目は、安心して暮らせる住まいの確保。3つ目は、近くで安心して子供を預けることの保育施設。この3つが町の中にまとまることによって、非常に便利に暮らせるということになるかと思っています。この中で、安心して暮らせる住まいの確保、これについていかがでしょうか。（発言する者あり）

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長、梶原新三君。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

安心して暮らせるということによろしいでしょうか。

今、日出町では、日頃から道の整備、道路の整備、幅広い整備、それから空き家バンクの登録を増やす等々の今、施策を打っているところです。その中でやはり空き家バンク、古い建物をそのままにしておくとなってしまう。その中に新しい住民が早く入ってもらいたいところも、安心して暮らせるというところにつながると思いますし、また道を拡幅して新築住宅を建てて住んでいただくというところも、安心して暮らせる町、それから災害のない町の中で住んでいただくということも、安心して暮らせる町になってくると思いますので、日出町全体として住民の皆様が安心して暮らせるようなまちづくりを今進めていると思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） 先輩議員、御指摘ありがとうございます。ちゃんと次は細部に当たって通告いたします。

お渡した資料の一番下に参考までにと書いたところがあるんですが、熊本県菊陽町、これも大きな話題になっていますけども、台湾セミコンダクター社、TSMCというんだそうですが、進出しました。半導体の受託生産では世界最大の会社だそうです。

以前、昔は一つの会社が企画から生産まで一つで行っていたんですが、今はそれはもうそういう会社じゃなくて企画をする会社、こういう半導体つくってください、生産する会社、分かれているんだそうです。台湾セミコンダクターはその半導体をつくることに特化した会社として世界最大だそうです。

東京ドーム4.5個分の敷地に工場を建設していきまして、今年後半には完成。2024年の12月には出荷を計画しているそうです。何とここには1,600人の方がお仕事に従事するそうです。

今、菊陽町は、1,600人の方が、もちろん近所からお勤めになる方もいらっしゃるでしょうけど、菊陽町の外からいらっしゃる方は新しいアパート、マンションが必要です。建設ラッシュとなっているそうです。

菊陽町は熊本市に隣接する町で、町の南部には熊本空港があるという非常に高立地な条件の町です。電車は豊肥本線なので単線ですから熊本から少し時間はかかるんですが、車の移動であればすごく便利なところだと伺っております。

日出町は大分市までJR30分、大分空港まで30分、高速道路のアクセス沿いという好立地に恵まれています。この条件を生かして菊陽町と同じように企業誘致は十分に可能だと思うんです。

本田町長になって6年半、町長の仕事経過しましたが、どのくらいの企業誘致が町長、できましたでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（工藤 健次君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） この6年経過した中での日出町における企業誘致という御質問でよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）企業誘致と言った場合、新規に誘致見えていただいた場合あるいは地場企業、既に進出されている方が増設したものも含めて雇用拡大を集計しているものがあるんですけれども、これによりますと10件で、新規雇用156名の雇用を生み出したところがございます。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） この6年半で10件、156名の雇用が生まれたということなんですが、町長任期これからあと1年半ほどございますが、先ほど菊陽町のお話をしましたけども、町長、これから町長は町のトップセールスマンだと私は思っています。町長がこれからどのような企業誘致についてでもいいですし、創業、起業についてでもいいですし、日出町をいかに豊かにしていくか、それで働く場をこしらえていくかということについて、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 確かに町民の雇用の場、働く場の確保というのは当然重要になってきますし、先ほどTSMCの話が再三出ておりますけども、1,600人の雇用というところで、なかなか日出町でこれだけの企業来ていただくと、雇用に応えるのはとても厳しいかなという気持

ちがしております。ここまで大きくなくても、日出町の雇用というよりも産業振興、地域経済の波及効果の大きい、そういう企業が来てくれるように目指していきたいと思っております。

そういった意味ではルートインホテル、雇用はそんなに大きくはありませんでしたが、地域経済に波及する効果は大きかったというふうに思っています。来る前から地場の産品を使わせてほしいと、雇用についても地元の方に働いてほしいということで最初から申し出があっておりましたので、私どももできるだけ雇用の期待に応えられるようにと、いろんな形で努力してきたところです。

そういったとこで、地域経済の発展に努めていただけるような、そういう企業を誘致したいというふうに思っています。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） ルートインホテルですと、そんなにたくさんの人の雇用ということには結びつかないと思いますが、町の産品ですとか、そういうことの消費につながっているということは非常にうれしいことだと思います。

先ほど台湾セミコンダクターのお話をしましたが、当町にはテキサス・インスツルメンツがございました。ここは1,500人ほどの社員さんがいらっしゃったと聞いております。もちろん交代があるから常時1,500人いるということはないでしょうけど、そのことにお詳しい方もこの中にいらっしゃると思うんですが、やろうと思えばできないことじゃないと思うんですね。非常に地の利を生かしたこの条件を、日出町の立地条件を生かし切れていないというのが私の印象です。

さっき3つの条件を私は上げましたけども、もちろん一定の賃金レベル、一定のレベルの賃金が必要だとか安定した職業というのも大事ですけども、住まいに関しては梶原課長のお答えでしたが、それに伴って結婚もできました、子供もつくることができました。じゃ、その後、何が来るのかと言うと教育なんですね。近くで安心して子供を預けることの保育施設、もちろんその後、子供さんが大きくなっていけば、教育というのも大事なんですけど、この点については教育長、いかがでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 教育長、恒川英志君。

○教育長（恒川 英志君） 子供たちが安心して学べる教育環境を充実させることは、我々の使命というふうに考えております。さらにそれに加えて、日出町で教育を受けて良かった、または日出町で教育を受けさせたいという声が少しでも多くなるように、教育実践、充実した教育実践を行うよう努力していくことが大切だというふうに考えております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。多田議員、企業誘致につながっていくんですけど、通告書

は企業誘致なんで企業誘致に関することをお願いします。

○議員（1番 多田 利浩君） 議長、これタイトル、昨日まで企業誘致にしなければよかったのかな、人口減少もあるしということで、これは私の通告書のつくり方が悪かったんだと反省しております。以後、気をつけるようにいたします。

今回、企業誘致はそうやって今後も御努力いただきたいと思います。必ずその3つがそろわないと企業誘致をしても、この町にとどまることができないというふうに思いますので、それはぜひこの3つを実現していただきたいと思います。

第5次日出町の総合計画の中でも、企業誘致の促進、雇用の場の確保が目標になっていると言われています。これは人口減少と関係があるんですけども、人口減少に歯止めをかけるために必要なこととはというアンケートに対して、若者や子育て世代の雇用を確保し生活基盤を安定させる、雇用の受け皿となる地場産業の育成や企業誘致を促進すること、妊娠期から乳幼児期までの医療の充実や保育所など子育て環境の整備、これがアンケートの大きな数字を得ています。ですから、総合計画でもこれが上がっていますので、ぜひそれに則って企業誘致を含めたまちづくりを進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

次の質問に移ります。昨年第2回の定例会で質問いたしました公共施設の今後の整備計画についてです。

財政課長の答弁は、公共施設の改修のために中長期的な財政状況を把握した上でスケジュールをつくりたいとのことでした。この質問から8か月は経過しましたが、現在のスケジュールの状況を教えてください。お願いいたします。

○議長（工藤 健次君） 財政課長、白水順一君。

○財政課長（白水 順一君） それでは、多田議員の御質問にお答えいたします。

公共施設改修のスケジュールの作成については、昨年6月議会で答弁いたしましたとおり、役場の本庁舎や保健福祉センター、中央及び地区公民館等の公共施設の個別施設計画の策定に向けて、事業者のほうと委託契約を交わし、現在、策定に向けて取り組んでいるところでございます。

しかしながら、事業者との日程調整などの関係で、本来、完成は本年度の予定でございましたが、若干時間がかかり次年度にずれ込むことが現在予想されております。したがって、令和5年中に、この個別計画の策定とともに、既に策定をしております個別計画を踏まえまして、具体的な更新スケジュールを来年度には作成できるようにしたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） ぜひ早急な、最初の去年お聞きしたときには、第2回の定例会で質問した際には、来年3月までにはぜひつくりたいという課長のお答えでしたので、それが延び

延びになってしまうと公共施設の改修に、整備にずれが出てきますので、ぜひ令和5年度中というのであれば、早急な整備計画をおつくりいただきたいと思います。

特に中央公民館、町民の方のお声を聞くと、中央公民館、これは先日の福祉文教委員会でも熊谷議員から、二十歳のつどいを中央公民館で行ったが、公民館が暗いと。せっかく二十歳のつどい、昔の成人式ですよ。これを行う場所として、ちょっと場所が残念だなという声もあったんだよという委員会での発言がありました。ですから、一生に一度のそういうセレモニーの場にふさわしいような改修を早期に行っていただきたいと思います。

やっぱりこれは優先準備をつけてやっていかなければどうにもならないと思うんですね。もう一つは、小学校なんですけども、特に川崎小学校、藤原小学校が今5つある小学校の中でも改修が行われていない、古いままだと。

先日、ちょっと校長先生にお願いして川崎小学校を見せていただいたんですが、町内の小学校、学校のトイレは全部和式から洋式、洋便器化されてきれいになりましたということでしたが、川崎小学校のトイレはいかがなものでしょうかというトイレでした。男子生徒が使うトイレと女子生徒が使うトイレの上は空間、完全に天井が仕切られていない状態なんですね。これは40年ほど前に造られたと聞きましたから、昭和50年代の頭だと思うんですが、トイレの扉は建てつけが悪くて、一度生徒が閉じ込められたという事態があるそうです。スライド式のドアは下のほうが破れてしまっていて、ちょっと手洗いがこのような状態ではいかがなものですかというようなことを見受けられましたので、特にその部分に関しては早急に見に行っていていただいて施設改修を行っていただければと思います。

特にこの公共施設の整備については、昨日もふるさと寄附金についてのお話が随分出ましたが、財源の確保がこれはもう本当に必要だと思います。数年前には3千万円程度だったふるさと寄附金が30倍の9億円近くまで増えたということは、これは担当された職員の皆さんに敬意を表することだと思います。

大体寄附金の半分ぐらいが町に残ると聞くんですが、今後さらに15億、20億というレベルまで増やして、一般財源に手をつけずに、ふるさと寄附金を使った公共施設の改修について、これについては財政課長いかがでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 財源確保についてということでもいいかと思いますが、財源の確保については公共施設整備基金への積立てを昨年度から開始しておりまして、本年度を含めて毎年5千万円以上を予算積立てを行いまして、令和7年度までに3億円を積み立てたいというふうに前回12月の議会でもそのように答弁いたしました。しかしながら、今先ほど申しましたように、町内全部の公共施設の個別計画の状況を考えますと、これだけでは不十分ではないかと今考えて

いるところでございます。

そこで、ふるさと寄附金の話が出ましたが、好調なふるさと寄附金を使ったまちづくり基金についても、公共施設の機能向上に伴う事業などへ充当して有効活用していきたいと今後は考えてございます。

○議長（工藤 健次君） 多田利浩君。

○議員（1番 多田 利浩君） お金がない、お金がないから何もできないということの繰り返しでは、この町は発展いたしません。お金がないから特別職の給与を減額する、減額を継続します。こういうことではなくて、何とかして財源を確保して、これからのまちづくりにつなげていただきたいと思えます。

こうでなければ、この町は本当に人口減少、一番最初に申しましたけれども、どんどんどんどん減っていく。20年後には4千人減ってしまうという推計が出ているわけですから、多分推計よりも早いペースで人口が減っていくのではないかと私は感じています。出生率がこれだけ、出生率をもっと先に80万人切るという予測だったのが、すごく前倒しで80万人切っていますから、日出町の人口についてもそうなりかねないと感じています。

ぜひ執行部の皆さん、私たち議員もほかの議員さんも同様のお考えだと思うんですが、ぜひ日出町に住もう、日出町だったら働く場があるという環境づくりは、これは絶対に必要だと思いますので、今後ともお互いタッグを組んでまちづくりを推進していきたいと思えます。ぜひよろしく願いいたします。

一般質問を終わります。ありがとうございました。

.....

○議長（工藤 健次君） 5番、豊岡健太君。豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 5番、豊岡健太です。通告書に従って一般質問を行います。

まず、自治体DXについて伺います。

DXとは、デジタル・トランスフォーメーションの略で、一言で言いますとデジタル技術で社会や生活の形を変えていくということです。これからのテクノロジーを最大限に活用して、経済発展や様々な社会問題の解決を目指すSociety 5.0の実現に向けて、国は日本全体のデジタル化を急いでいます。

行政手続のデジタル化を目的として、政府はデジタルガバメント実行計画を平成30年に策定するとともに、地方自治体が重点的に取り組む事項等を掲げた自治体DX推進計画を令和2年に策定し、行政手続のデジタル化や情報システムの標準化・共通化を進めることなど、地方自治体業務のデジタル化の方向性を示しました。住民の利便性向上を目的に、デジタル活用を前提とした行政サービス全般の見直しという広い目線で進められています。

日出町においても、1年前の令和4年3月に日出町DX推進計画を策定し、令和7年度までの目標達成を目指し、日々取り組んでいることと思います。日出町DX推進計画がスタートしてから約1年がたち、計画の4分の1の期間が過ぎようとしています。

そこでお聞きします。日出町DX推進計画のここまでの進捗状況と課題はどういったところと考えているかお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長、梶原新三君。

○政策企画課長（梶原 新三君） では、豊岡議員の御質問にお答えいたします。

日出町DX推進計画は、先ほど議員がおっしゃっていましたように、令和4年3月に「みんなが便利に日出町のデジタル化」を目的に策定されました。取組事項として、国が示す重点取組事項の6項目、そして日出町独自の取組事項として5項目の計11項目を定めています。少しだけ長くなりますけれども、一つ一つの進捗状況をお伝えします。

まず最初に、自治体の情報システムの標準化・共通化でございます。対象業務は20業務。現在日出町が実施している基幹系システムと国が進める標準化システムとの仕様調査は、令和5年に実施することを県内市町村で組織する協議会で決定しており、令和7年度の実施に向けた情報共有を行っております。

次に、行政手続のオンライン化です。国の要請分である介護や子育てに関する26業務の契約を昨年12月に行っており、令和4年度末までには導入する予定でございます。

次に、自治体のAI、RPAの活用促進です。業務効率化と職員のワークライフバランスを考慮したものでございますが、昨年6月より専門員の常駐を行い、順次、効果の高いものから推進しています。令和4年度に17業務の導入を目指しています。

最後に、セキュリティ対策の徹底です。国のガイドラインの見直しにより、昨年6月に日出町情報セキュリティポリシーを改定し、情報セキュリティ委員及びセキュリティ対策協力委員を通じて周知するとともにeラーニングによる職員研修を実施しております。

昨年、職員によるUSBメモリの紛失というものがございました。この事案を踏まえ、USBの取扱いに関するセキュリティ強化を行い、さらなる情報セキュリティ対策の徹底を実施しております。

ほかにマイナンバーカードの普及促進、テレワークの促進の項目がございますが、後ほど豊岡議員の御質問に重複いたしますので、後ほどお答えいたします。

続いて、日出町独自の取組事項です。

まず、1項目めとして、キャッシュレス決済の推進でございます。住民生活課などの窓口のキャッシュレスを令和5年に導入し、住民の利便性の向上を図ります。

続いて、ペーパーレス推進のための庁内環境整備です。昨年4月よりコピー機のカラー出力停

止をはじめ、各種会議ではパソコンを持参することによる紙の廃止、選挙当日の投票管理システムの導入、これは選挙人名簿の印刷数減少させるものがございます——などを実施してまいりました。議員の皆様にもタブレットの導入により御協力を頂いております。

続いて、オープンデータの推進です。昨年、地域別人口の公表を実施し、令和7年度末までに順次実施していく予定です。

最後に、内部情報系システムの一元化でございます。人事給与や財務会計などのシステムが若干古くなっており、他のシステムとの連携も行えないことから、令和7年度末までのシステムの一元化を図る予定でございます。現在、若手職員で構成した部会でも調査検討を重ねており、導入に向けた取組を行っております。

ほかにもデジタルデバイドの対策がございます。これに関しても後ほどの御質問でお答えさせていただきます。

以上が、日出町DX推進計画の進捗状況でございます。

また、課題はという御質問ですが、現在、昨年の計画策定から順次取組の実行をしておりますが、効果が見えるのはこれからだと思っております。

課題や効果を把握するためにも、行政手続の問題等に対するアンケートの実施を今年度中には行っていきたいと思っております。

また、費用対効果の課題もありますが、最初に申しましたように、住民の皆様の利便性向上が第一の目的でございます。初期投資は必要だと思っております。効果の見える投資に注力しながら、日出町DXの推進を行ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） るる、説明頂きました。まだ1年ですので、なかなか目に見えた成果というのは難しいかと思えますけれども、今課長がおっしゃったように町民サービスにつながるように引き続き取り組んでいていただきたいなというふうに思います。

次は、テレワークに関する質問ですが、コロナの影響によって、特に民間企業においては地域差はあるかと思えますけれども、テレワークが大分普及していくなというふうに感じていますが、地方自治体においてはどの程度普及しているのかが気になるところです。

総務省が令和3年度に行った、地方公共団体におけるテレワークの取組状況調査結果の概要という資料によれば、都道府県及び政令指定都市では100%導入済みという結果でした。その一方、市区町村で導入している割合は、職員数が301人以上の団体で78%、日出町が当てはまる101人以上300人以下の団体で46%、職員100人以下の団体では22%と、小規模な団体ほどテレワークの導入が進んでいないことが伺えます。

そこで日出町の状況をお聞きしますが、DX推進計画のロードマップにありますテレワークの推進という項目内に、今年度は在宅勤務の試行運用、来年度からテレワークの本格的な導入による利用率向上とありますが、まず日出町役場のテレワークの現状を教えてください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

昨年6月より総務課職員や当課の職員が試行運用を始めております。出張時の使用や災害時の利用など本格導入に向けた規定の整備を今、総務課が進めている状況でございます。

今後の方針といたしましては、休暇を取得するほどではないんですが、介護や育児を必要とする職員や先ほど申しました出張時、災害時に利用することを予定しております。

課題といたしましては、よく言われる職場内のコミュニケーション不足等々があるということを開きますけども、日出町役場の場合、遠距離通勤をする職員がいませんので長時間テレワークを行うことが現状ございません、想定できませんので、課題を上げるとすれば、持ち出し用のパソコンの増加などコスト面が考えられるかなと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 総務課が中心となって進めているという話でよろしいですかね。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） ハード面については、当課のほうで進めております。ただ、運用規定、職員規定等ありますので、組合等とも話さなければならないということもありますので、その辺は総務課にお願いしているという状況でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） ありがとうございます。

先ほど御紹介した、総務省のテレワークの取組状況の調査結果の中に、導入していない理由の1番目に、役場の仕事はテレワークになじまないという理由が上がっていました。住民と顔を合わせて対応することが多々あると思いますので、確かにそういった面もあるかなというふうに思います。しかし、テレワークに移行できる業務もあるというのは課長も把握されていらっしゃると思いますし、働き方改革が叫ばれている中、テレワークにはメリットも多々あるかと思えます。ぜひ、計画的に推進していただきたいというふうに思います。

次の質問です。冒頭にも申し上げましたが、国の方針によって、自治体DXが推進されています。民間企業に求められるDXとは違って地方自治体に求められるDXは、住民の利便性、行政サービスを向上させるものだと思います。

各市町村がDXに取り組んでいると思いますが、日出町ではどんなところに重きを置き、日出

町のDXにはどのような特徴があるのかお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

昨年、日出町DX推進計画を策定し、「みんなが便利に日出町のデジタル化」を第一の目標にデジタル化を推進しております。そのためにも国が推進する取組項目はもちろん、いつでもどこでも役場にアクセスでき、住民の皆様に使ってもらえるサービスの提供を心がけているところでございます。

また、AIやRPAの導入により業務効率化と経費削減を図るとともに、職員のワークライフバランスの向上を目指しております。

日出町のDXにどんな特徴があるかという答えになってはいないかもしれませんが、日出町が目指すものはあくまでも住民の皆様の利便性の向上を目標としております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） ちょっと期待していたような答えと違ったんですが、町長にもお聞きしたいんですが、町長の指示の下、全庁一丸となってDXに取り組んでいると思いますが、日出町DX推進計画を通じて、日出町が目指すべき未来はどのような姿だと町長はお考えでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 私も、この質問を見てどんな答えを言ったらいいのちちょっと想像がつかせませんでしたけど、さっき課長が申し上げたように、基本的には住民の皆様の利便性向上ですね、届出とかそういったことがわざわざ役場に行かなくてもできるという時代が来るように取り組んでいるところです。

どんな特徴があるのかというさっきの質問がありましたけど、RPAの取組等は、子育て関係の届出とか健康増進関係の予防接種の関係だとか、そういったところから取り組んできております。住民の皆様が一番身近な届出とか、そういったところはデジタル化できるように取り組んでいきたいところです。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） ぜひ町長の強いリーダーシップの下、推進していただきたいというふうに思います。

次の質問です。今年1月25日に私が所属している総務産業常任委員会は、10年に一度と言われた大雪の中で、DXの先進地と言われている石川県の加賀市に行政視察に行っていました。加賀市の面積は日出町の4.2倍、人口は約6万4千人で2.3倍と、自治体の規模は違えど

抱えている課題は大きく違いません。

議会初日の総務産業常任委員会の委員長報告にもありましたが、加賀市は2014年に消滅可能性都市の一つに指摘されたことをきっかけに、加賀市が生き残るために「進化する先端技術を行政に活用しよう」をスローガンに掲げ、市長の強いリーダーシップの下、スマートシティ加賀を目指してDXに積極的に取り組んでいます。

課長も同行していただき活発な意見交換が行われましたが、どのような取組が参考となり、日出町はどのような取組を検討しているかお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

私も豊岡議員の横に座らせていただいて、すごく勉強させていただきました。ありがとうございます。

デジタル化はどんなところということですけども、デジタル化はもちろん、加賀市は消滅可能性都市として厳しい状況の中、加賀市が生き残るために進化する先端技術を行政に活用することで打開しようと成長戦略に掲げスマートシティ宣言をしております。そうした宣言をすることで国の支援を受け、企業を呼び込み、デジタル大学の開設まで目指しているというところでございます。

市民を巻き込みながら、多様な団体と連携し、シビックプライドを上げていく、こうした取組は学ぶべきものであり、日出町にとっても公民産学が連携した共創のまちづくりが非常に重要と感じました。

日出町においてもDXの推進はもちろんでございますが、総合計画の実現に向けて、町民の皆様を中心とした公民産学の連携も強めていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 日本国内で先進地と言われているだけあって、加賀市に行って大変勉強になりましたし、様々なことに取り組んでいると思います。

そういった加賀市のいわゆる特徴、一言では言えませんが、積極的に取り組む姿勢といえますか、ああいったところを見習っていただいて、それが日出町のDXの特徴だと以降、今後言えるように取り組んでいただきたいというふうに思います。大雪の中、せっかく現地に行ってお話が聞けましたので、ぜひしっかりと参考にさせていただきたいというふうに思います。

次に、デジタルデバイドの質問に入ります。デジタルデバイドとは、インターネットなどの情報通信技術やスマートフォンやタブレットなどのデジタル機器を持っている人と持たない人の間にできる情報格差のことを指します。様々な理由で情報通信技術の利用が困難な人は情報弱者と

呼ばれ、あらゆる場面における情報収集で不利だとされています。

パソコンからタブレット、スマートフォンまで、現代の私たちにとってデジタルツールを利用した生活は、もはや当たり前のこととなっている一方で、いまだにデジタルツールの利用ができずに置き去りにされている人々も多く存在します。

D X推進計画の中にもデジタルデバインド対策がうたわれていますが、こういった格差解消の方針をお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

全ての住民がデジタル化の恩恵を享受できることを目的に、携帯電話会社や町内のデジタル支援団体と協力してスマホ教室等を実施しております。

また、地域でスマートフォンの使い方を教え合う体制を構築することを目的に、大分県が実施した大分県地域デジタル活用支援員育成に各種団体から10名の方に参加していただきました。

先ほど申し上げました視察先の加賀市では、65歳以上の方がスマートフォンを購入する際の助成やシニアスマホアドバイザーの認定など先進的な取組をしておりました。日出町といたしましても様々な施策を検討し、広く周知することで多くの住民の皆様にご参加いただき、デジタルデバインドの解消につなげていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） スマートフォン教室等を開催されているという話でした。教室にどのくらいの方が参加しているのかちょっと分かりませんが、教室に通って使いこなせるようになるかどうかのフォローじゃないですけども、そういったことは取組されていらっしゃるんですか。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） 今ここに正確な数字は持っておりませんが、御参加された方はそれなりの写真を撮れたとか、そういうところは最低限できていると思いますし、フォローに関してはやっておりませんが、最初の使い方を学べば、高齢者の方々もお孫さん等と話す中で、だんだんスキルが上がっていくんじゃないかなと思っております。初期の段階のところをやっているというところがございます。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） コストもかかる部分はあるかと思いますが、デバインド解消に向けて、しっかり取り組んでいていただきたいというふうに思います。

このデジタルデバイド、いわゆる情報弱者を利用した詐欺や事件が毎日のように報道されています。例えば商品価格の比較ができずに高額な商品を買つけられたり、スマートフォンやパソコンのほうに届いた悪質なURLをクリックしてしまい、書いてあるとおりに入力して個人情報を盗まれたり、また、クレジットカードを不正利用されてしまうというリスクがあります。

高齢者に限らず、中高年や一部の若い世代の人でも詐欺や事件に遭うことも多々ありますので、このデジタルデバイド対策は詐欺への対策にもつながるといふふうに思います。町民への被害を未然に防ぐという意味でも、しっかりと対策を進めていただくよう強く要望いたします。

次に、マイナンバーカードについてお聞きします。

町長の指示の下、担当職員の御尽力により、日出町ではマイナンバーカードの普及が他の自治体と比べ比較的進んでいるほうだと聞いています。DX推進計画のロードマップでは、今年度末に65%の普及率という計画のようですが、直近の普及率を教えてください。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長、伊豆田政克君。

○住民生活課長（伊豆田政克君） お答えいたします。

マイナンバーカードの2月19日時点の申請率は78.48%で、大分県下で6位、交付率は67.93%で7位という現状です。そして、令和7年度までに町民の皆さんの所持率90%を目指しているところでございます。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 申請が78.48ですかね、取得するまでに若干のタイムラグがあるかと思うので、この辺は普及率は今後も多少伸びていくんじゃないかなというふうに思っています。

DXを推進する上で、マイナンバーカードの普及は欠かせないというふうに思いますし、鍵を握っているとまで言えると私は考えています。皆さん御存じのとおり、マイナンバーカードにはICチップが搭載されており、昨日の答弁でもありましたが、マイナンバーカードに記載されている情報や公的個人認証の電子証明書等が入っているというふうに聞いています。あらゆる記憶媒体には容量という概念があり、このICチップには追加で記録できる空き容量があります。この空き容量は自治体によって自由に活用することができ、様々な取組が全国の自治体で展開されています。

特にカードの利活用が先進的だなというふうに感じたのは、新潟県の三条市の取組で、市のホームページにサービス内容が掲載されています。日出町でも今月の27日から始まる住民票などの各種証明書のコンビニ交付はもちろん、図書館の貸出しカードとして利用できたり、また、全国初の避難所の入退所受付、全国初の選挙の投票入場受付、こちらも全国初の役場職員や小中

学校の職員の出退勤時刻管理、タイムカードですね——にもマイナンバーカードを活用しています。そのほかにもいろいろできることがあります、かなり積極的に活用しているなというふうに感じました。

そこで伺います。現時点で、ここ日出町においてマイナンバーカードはどのように利用することができるのか、そして今後どのようなサービスを行っていく考えなのかお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） 御質問にお答えいたします。

現時点での活用方法は、本人確認書類のほか健康保険証としての利用、確定申告や転入・転出のワンストップ手続などが上げられます。また先ほど議員もおっしゃられましたけれども、3月27日にはコンビニ交付サービスの開始を計画しておりまして、マイナンバーカードで各種証明書の取得を可能にする予定でございます。令和6年度には運転免許証との一体化等も予定されておると聞いております。

町独自の利用に関しましては、これも議員おっしゃられましたけれども、図書カードの利用など実現可能なものから検討していこうと考えているところです。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 先ほど申し上げたのは、全国の事例も参考にしつつ、住民が利便性を実感できるような施策を目指して取り組んでいただきたいというふうに思います。

今お話出ましたが、ひもづけしていればの話だと思えますけれども、町内の医療機関でマイナンバーカードが健康保険証の代わりに利用できる、既に利用できるかと思えます。町のホームページに令和5年3月末、今月末ですね、おおむね全ての医療機関等での導入を目指すとありますが、現状、町内全ての医療機関、薬局でマイナンバーカードが使える状況になっているのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） お答えいたします。

病院等でのオンライン資格確認ですけれども、これは法務省のホームページで確認したところでございますけれども、日出町では病院が3病院のうち2か所、診療所は12か所のうち4か所、歯科医院で11か所のうち5か所ということで、大体现在のところでは45%ほどでございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 今、聞いた話では大分低いなというふうな印象を持ったんですが、目標の半分しか達成できていないというのは壁といいますか何か原因があるんですか。

○議長（工藤 健次君） 住民生活課長。

○住民生活課長（伊豆田政克君） 正確な原因等は把握はしておりませんが、一時の半導体

不足ですとか、あとどうしても基本的にはこれ機械は国のほうから補助金等が出るんですけども、ただ、それに基づきまして自病院内のシステムの改修とかもあることから、先日の質問の中でもありましたけれども、強制するという話があったと思うんですけども、医師会が。どうしてもそういう病院内の改修とか、いろんなことがありまして、導入をためらっているところもあるという話は聞いておりますけれども。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 医療機関側の都合もあるようですので、私もそうですけど、せっかく保険証とひもづけていますんで、これ1枚で早くどこでも使えるようになっていただきたいなというふうに思いますので、医療機関と相談することがあるか分かりませんが、ぜひそういったサポートもしていただきたいというふうに思います。

次です。デジタル人材の確保と育成方針について伺います。

昨年12月27日に地方公共団体におけるデジタル人材の確保・育成に向けた総務大臣の書簡が、都道府県知事並びに市区町村長宛に発出されたかというふうに思います。内容の一部を抜粋して御紹介しますが、総務省では地方公共団体におけるデジタル人材の確保・育成の取組を支援するため、デジタル化の取組の中核を担う職員、DX推進リーダーの育成に係る経費や外部人材の任用等を行うための経費に係る地方財政措置を拡充することといたしました。

加えて、総務省地方公共団体金融機関・金融機構の共同事業である経営財務マネジメント強化事業において、DXの取組を支援するための専門アドバイザーを派遣するほか、人材確保・育成参考事例集を新たに作成することで、各地方公共団体における人材の確保・育成に向けた取組を一層促進することといたしました。これらの国の取組と連携しながら、DXの取組を担うデジタル人材の確保育成に積極的に取り組んでいただくようお願いいたします。

とあります。

そこで伺います。日出町では、このデジタル人材の確保と育成の方針はどのように考えているのかお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 政策企画課長。

○政策企画課長（梶原 新三君） お答えいたします。

まず、今現状のほうお答えさせていただきます。現状といたしましては、昨年議員の皆様も御参加されました立命館アジア太平洋大学の准教授によるDX研修会をはじめ、2月には職員向けのDX研修会をワークショップ形式で行いました。

デジタル人材の育成は、長期的に考えていかなければならないと思っております。まずは、各階層に応じた研修によるDX推進の必要性の認識と苦手意識の克服を目指し、その後、情報部門

での意欲ある職員等の、それから各課のDX推進委員などに必要な知識を取得してもらうための研修を行ってまいります。

今後も、先ほどの大学の教授など専門家の知見を頂きながら、職員全員がデジタルを活用して、住民の皆様が便利になる仕組みづくりを考えることのできるような人材育成に取り組んでいるところでございます。

先ほど議員が御指摘のあったような専門アドバイザーの招聘等は、現状はまだ行っておりませんが、今後検討していく必要があるのかなと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） こういった国の施策をフルに活用しながら取り組んでいただきたいというふうに思いますが、課長もよく御存じのとおり視察に行った加賀市では、DXによる成長戦略の2本柱として先進テクノロジーの導入とともに、人材の育成に力を入れていました。ぜひこちらも参考にしていきたいというふうに思います。

DXに限ったことではありませんが、ますます加速する少子高齢化の中、人材の確保と育成は本当に大切な課題だというふうに思いますので、しっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。

経済産業省が発行したDXレポートという資料の中に、2025年の崖という言葉が出てきます。日本国内の企業が市場で勝ち抜くためにはDXの推進が必要不可欠であり、DXを推進しなければ業務効率、競争力の低下は避けられないとされており、競争力が低下した場合の想定として、2025年から年間で約12兆円、これは平成30年と比較して約3倍だそうですが、12兆円の経済損失が発生すると予測されており、これを2025年の崖と表現しています。こういった経済損失が出ないように、自治体だけでなく町内事業者もDX推進をしていかなければいけないというふうに考えています。

まちづくり推進課長に答弁をお願いしたいんですが、自治体、つまり日出町だけでDXを推進しても、町内の民間企業のDXが遅れていては相乗効果が期待できないというふうに思います。商工会を通じて、町内事業者へのDX推進を促してほしいと要望したいのですが、いかがでしょうか、所感をお伺いします。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長、藤本周司君。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） それでは、御質問にお答えいたします。

町内の民間企業のDXの推進の状況の把握も含めて、商工会と相談をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） ぜひお願いします。

D Xは国がやれと言うからやるのではなく、また国の言うとおりにするのだけではなくて、日出町が飛躍できるチャンスというふうに捉えてほしいと思いますし、ぜひ先進地を目指してほしいなというふうに思います。また今後も一般質問で確認させていただきたいというふうに思います。

○議長（工藤 健次君） 豊岡議員、ちょっとお待ちください。

○議員（5番 豊岡 健太君） はい。

○議長（工藤 健次君） お諮りいたします。一般質問の途中ですが、ここで中断してしばらく休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 健次君） 異議なしと認めます。したがって、しばらく休憩します。午後1時10分より再開いたします。

午後0時08分休憩

午後1時10分再開

○議長（工藤 健次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。5番、豊岡健太君。豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 次の質問です。役場周辺商店街と二の丸館についてお聞きします。

通告書に書いてある商店街というのは、八日市の交差点から役場前を通って堀の交差点までのことを指しています。これまでも私もそうですが、複数の先輩議員から過去、この商店街を危惧する質問が多々あったと思います。

今回改めてお聞きしますが、まず直近の商店街の空き店舗の現状と過去5年間どのように推移しているのかお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 豊岡健太議員の御質問にお答えいたします。

商店街の空き店舗の現状につきましては、現在、日出町商工会と連携して調査を行っているところでございます。この空き店舗調査は今回初めて実施するものでございまして、過去5年間における変化を具体的にお示しすることは難しいと思いますが、体感としましては新規出店者は見られるものの、依然として一定数の空き店舗が存在しているという状況と考えております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 調査中ということでした。調査が終われば、ぜひ委員会等でまた教えていただければというふうに思います。

次ですが、空き店舗活用創業支援等事業の補助金についてですが、これは町内における空き店舗の解消と創業による地域のにぎわいづくりを図るために始まった補助金だと思っています。補助対象等中身が少しずつ変わりながらも、たしか平成26年から始まった補助金だと認識していますが、過去5年間の活用状況と創業者数、これはイコールの数字になるのかもしれませんが、創業者数の推移をお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） それでは、御質問にお答えいたします。

空き店舗活用創業支援等事業補助金の活用状況につきまして、令和4年度からこの制度を開始しておりますが、今年度における活用実績はございません。ちなみに以前の制度ですと、平成30年度からですが、30年度が2件、元年度がゼロ、令和2年度が2件、令和3年度がゼロ件となっております。

商店街における創業者数につきまして直近の3年度におきましては、令和4年度が1人、3年度が1人、2年度が4人となっております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 平成30年度から2、0、2、0という数字だったと思います。

ちなみに、3年前の令和2年の3月議会で同様の質問をさせていただきました。その当時の答弁では、平成27年から令和元年度までの5年間の実績が、2件、0件、1件、2件、0件と5年間で5件という数字でした。令和2年度以降も、ほぼ変わらず年平均1件ぐらいで推移しているようですが、課長はこの数字を見てどのように感じられますか。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） では、御質問にお答えいたします。

なかなか創業が難しい現状にあると思っております。活性化できるように努力していきたいと考えています。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） コロナ等の影響もあって、なかなか伸び悩んでいるのかなというふうにも感じないこともないんですけど、ただ、以前からも年平均1件ぐらいですので、大幅に増える見込みがなかなか難しいのかなというふうに感じています。

今回、商店街の話と関連して二の丸館のこともお聞きします。次の質問ですが、二の丸館では

様々な商品を販売しているかと思いますが、売上げの推移というのはどのようになっているでしょうか。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 御質問にお答えいたします。

平成29年度から申します。29年度が666万5,078円、平成30年度が544万4,997円、令和元年度が640万6,824円、令和2年度が746万8,539円、令和3年度が599万6,410円となっております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 大体600万ちょっとぐらいが平均かなというふうに思うんですが、そうすると月に50万、1日に二、三万の売上げというふうな単純計算ですけど、そういうような推移かと思います。ちなみに目標金額とかそういったものはあるのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） それでは、御質問にお答えいたします。

特に目標金額というのは設定はしておりませんが、財源になりますので、それを増やすように、先般新聞にも掲載されましたが、城郭カードとか商品の開発に取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 私も拝見させていただきました。いろいろ新商品といいますか興味の湧く新商品開発にも力を入れていただきたいというふうに思います。

ちなみに先ほど売上げをお聞きしましたが、売上げの配分といいますか出品者や、またそういったツーリズム協会さんのほうには、どういう割合で配分されているのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） それでは、御質問にお答えします。

町内の場合ですけども、出品者が85%、協会が15%というふうになっております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 私も時々お邪魔させてもらいますけども、最近は大分何か模様替えといいますかすっきりして、また商品が見やすくなったなというふうに感じています。こういった今置いてある物販の売上げのよしあしがあるかと思うんですけども、そういったもののよしあしにかかわらず、一度出したものは置き続けられるのでしょうか。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） それでは、御質問にお答えいたします。

レイアウトにつきましては、先進地を見学に行きまして参考にさせていただいて、現在のレイアウトにさせてもらっております。置き続けることができるのかということなんですけども、非常に出品数も多くなってまいります。売れ筋を見極めて、あまり売れ筋でないものは入れ替えて置く工夫をして配置をしております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 売上げが伸びる商品が増えることを期待しています。

次ですが、令和4年度の大分県観光産業リバイバル推進事業の一環で、ココロとカラダに優しいヘルスツーリズムをコアとした、ひじワーケーションモデル事業に着手して、先月2月1日の総務産業常任委員会の現地視察でお邪魔させていただきましたが、二の丸館横にある裏門やぐらを改装して、ワークスペースの施設整備を行ったかと思えます。

総務産業常任委員会でお聞きした内容と重複することもあるかと思いますが、この共有オフィス「YAGURA」の現状と今後どのように活用していくのか方針をお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 御質問にお答えいたします。

ひじワーケーションスペース「YAGURA」は、大分県観光産業リバイバル事業で環境整備を行いました。現在、令和4年11月1日から令和5年4月30日までの6か月間の実証期間中のごさいますて、無料で貸し出しをしており、利用状況といたしましては月平均で30名程度でございます。実証期間終了後、大分県から日出町へ移管手続を行います。移管後、有料化に向けて条例改正し、収益事業化する予定としております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 委員会でもお聞きしましたが、現在無料ということでした。有料化の金額はまだこれからだとは思いますが、今お聞きすると月に30名くらいの利用があるということで、これが有料になったときにどのくらいになるのか分かりませんが、使いやすい金額に設定していただいて、たくさんの方に利用していただきたいなというふうに思います。

「YAGURA」は、日出町の風情を残したオフィスとなっておりまして、私自身いい取組だなというふうに感じていますし、今後ますます活用されるように期待をしています。

次です。1年前の3月議会でも質問させていただきましたし、6月議会では先輩の池田議員が同様の質問をしています。何度も聞いて申し訳ありませんが、二の丸館を質問する上で避けては

通れない事業だと思っていますので、チャレンジスペース「茶時まるに」の直近の状況から教えてください。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） 御質問にお答えいたします。

茶時まるににつきましては、にぎわいの場と創業体験の場を創出することを目的としまして、オープンから1年半が経過いたしました。出店の稼働率は昨年8月から9月は低迷したものの、現在では8割近く御利用いただいている状況です。固定のお客様も増えており、にぎわいの場の創出という面では一定程度の成果を得られているのではないかと考えております。

現在、商工会では2件の創業予定者の御相談を受けているようです。今後もツーリズム協会と商工会とが連携し、創業支援のサポート体制を整えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 今後の方針というのは今おっしゃったのでいいですか。（「そうですね」と呼ぶ者あり）はい、分かりました。

今80%程度の稼働ということで、以前もお聞きしたんですが、なかなか創業につながっていないというのが現状だと思います。今2件ぐらい予定があるというお話を聞きましたので、何とか創業につなげて行っていただきたいというふうに思いますし、もともとの本来の目的が創業につながるような流れといいますか体制づくり、こちらのほうをしっかりと商工会とも連携しながら確立して行っていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。今後も注視していきますので、よろしくお願ひします。

最後の質問ですが、後ほど町長にもお考えをお聞きしますが、これからの続いていくまちづくりにおいて、商店街をどのようにしていく考えなのか、課長のお考えをお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（藤本 周司君） それでは、御質問にお答えいたします。

今回の空き店舗調査におきまして、所有者の意向調査を実施いたしますので、活用可能な物件につきましては、空き店舗の解消を促進し、にぎわいづくりを行ってまいりたいと考えております。

また、令和6年度頃の実施になろうと思いますが、商店街における創業者や関係者を集めたワークショップ等を開催して、活性化に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 今後、意向調査をするというお話がありました。商店街の皆さん

が必ずしも利活用をしてほしいと思っているかどうかというのは不透明な部分があるかと思えますので、そこもしっかり地主さんといいますか、大家さんといいますか——の意向を酌みつつも何とか活性化につなげていっていただきたいなというふうに思います。

町長のほうにお聞きします。平成29年9月議会の議事録を見ますと、先輩の金元議員の一般質問において、この商店街の活性化について町長の構想を聞かれています。そのときの町長の答弁では、現状は大変厳しいと認識している。現状を見る中で、いい活性化策が思いつかないが、商工会との意見交換の場において一緒に考えていきましょうと話が出て商工観光課と議論を重ねているところです。と答えられています。

あれから6年半がたちますが、その間もこの商店街の活性化については一般質問でもあったと思いますし、また商工会との意見交換会も幾度となくあったかと思えます。2点お聞きしますが、まずこれまでに取ってきた施策について、町長はどのように評価しているかが一点。

もう一点は、商店街の変化を6年半前と比べてどう実感されているか、所感をお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 役場周辺商店街のことについて、これまでの施策の評価というところでございます。確かに先ほど申されました金元議員の御質問頂いたときは、なかなか厳しい状況というところで具体的な策も見つからなかったところですけども、あれから6年たってくる中で、観光協会がツーリズム協会となって創業支援等も商工会と連携して取り組むようになってきた。そういったところが明るい方向に変化したかなと私は思っています。

あの時点でも、なかなか創業される方を見つけるというのは難しかったんですけども、まるにの売り場等で創業しようとしている方がチャレンジしてみることができる、そういった素地も整いましたし、そういったことがこの6年間でできてきたかなと思っています。

商店街の変化としては、その頃からまた商店街の状況そのものは変わってきたわけではありませんけども、これから創業等で役場前商店街、今城址のすぐそばというところもありまして、やはり廃れてしまうわけにはいきませんので、なかなか従前商売とかをされていた方がもう一回というのは当然厳しいと思えますけれども、いろんな先ほど来、これまで創業された方の話がありましたけども、いろいろな飲食とか、そんな形の店舗の方が意欲を見せていただきつつありますので、その辺を支援する中で、空き店舗という豊岡議員が言われたように持ち主が活用を望んでいるかどうか分かりませんが、店舗として生かしていきたいという思いがあるところについては、そういった形で商店街というところまでいくかどうか分かりませんが、にぎわいのある地域にしていきたいというふうに思っています。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 先ほどまるにもそうですけど、一人でも多くの創業といいますか、お店を出していただいて、日出町の商店街活性化するように引き続き支援をお願いしたいというふうに思います。

副町長にもお聞きしたいんですが、副町長、就任されて1年数か月ですかね、日出町に住まわれているかと思えますけども、副町長はこの商店街どのように感じられますか。

○議長（工藤 健次君） 副町長、一丸淳司君。

○副町長（一丸 淳司君） 質問頂きましたけれども、確かに私自身がちょっとこちらに住んで1年ということで、以前どのような状態であったかというのは存じ上げないんですけれども、確かに空いているところが多いなというふうに思います。そういったところに創業の方が入っていただいて、にぎわいの場になればいいなと思っておりますので、そういった支援を続けて、これからもやっていければというふうに考えます。

○議長（工藤 健次君） 豊岡健太君。

○議員（5番 豊岡 健太君） 外部からの視線もぜひ町長とも関係各課とも話し合っていて、また違う目線での支援等も考案していただきたいなというふうに思います。

日出町商工会では、この商店街を何とかしたいというふうに考えていますが、町の協力はもちろん、町長が商店街をこうしたい、こうなってほしいという明確なビジョンを示していくのが大事なのではないかなというふうに思います。私も商工会の一員として微力ではありますが、協力できることはしていきたいというふうに考えています。

商店街がにぎわうよう引き続き策を練っていただくことをお願いするとともに、DXについてはまた改めて質問させていただきますので、こちらもしっかりと取り組んでいただくことをお願いして、私の一番質問を終わります。

.....

○議長（工藤 健次君） 14番、森昭人君。森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 14番、森でございます。今定例会最後の質問となります。そんなに時間もかからないと思いますので、最後まで御協力よろしく願いいたします。

通告では、先に公共施設等総合管理計画ですけれども、先に消防署の建て替えについて質問させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

昨年9月の定例会の一般質問では、日出消防署の建て替えについて日出町の考え、町長の方針を御答弁を頂きました。それを踏まえまして、昨年12月に開催された杵築速見消防組合議会の全員協議会で、管理者である永松杵築市長にただしたところ、意外にも前向きな答弁、意外な内容を答弁頂きました。そのやり取りは後ほど御紹介をしたいと思います。この熱が冷めないうちに、ここは一気に事を進めるべきと判断いたしまして、また、役場内の議論が不可欠であるこ

とから、9月に引き続き一般質問をさせていただくものであります。

それではまず、今年で築40年が経過する日出消防署の現状をどう認識しているのか改めてお聞きいたします。

○議長（工藤 健次君） 財政課長、白水順一君。

○財政課長（白水 順一君） それでは、森議員の御質問にお答えいたします。

建物の耐用年数や署員の福利厚生面を考慮いたしますと、建て替えを検討する時期に来ていると思っております。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） それでは、前回もちょっと質問しましたけれども、私が消防署の職員に少しお聞きをしたところ、20項目ばかり設備、施設に不備があるということで、全てそれをお話しすると各部署からお叱りを受ける可能性がある所以说いませぬけれども、その不備な点についてはどういうふう把握していらっしゃるでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 細かい項目については、消防署のほうから事情は聴取しておりませぬ。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） これから議論していく中で、しっかりと事情を聴取していただきたいんですが、先ほどお話ししました前回の消防組合の全員協議会について、どうしても山香署、昨年4月に完成をいたしました。事業費が土地代を抜きにして3億1,100万円か、3億円ちょっとかかっております。40年過ぎる日出署についても次が日出町だということで、前回の定例会の質問の答弁を受けて全員協議会で発言をしたわけですが。

率直に来年40年を迎える日出消防署なんですけれども、建て替えについてはどういうふうにお考えですかと管理者である永松市長にただしたところ、やらないといけぬのは間違いない。いつから始めるかというのはまた検討させていただければと思いますということ。その後、これが10年先だったら困るものですから、5年後ぐらいに形にできるような計画を立てて、ぜひ計画をしっかりと立てていただきたいと、いかがですかという問いに、現状ではいつと言えないということで、いつと言えないかということ、場所と土地というのは自治体が用意するということだったと思いますので、日出町さんのほうでここということが決まってからと。ちょっと端折るんですが、職員さんのいろんな要望とか、それは消防署の方で確認していただいて、土地については日出町さんのお考えかと、またお聞きをしたいというふうに思っております。建て替えるという方向は間違いありませんという明確な答弁を頂きました。

そこで、日出のほうで土地を用意できれば即議論をするのかというふうにただしたところ、今

日は町長さんちょうど療養中でおられなかったもので、副管理者である日出町長さんと少しお話をしたいということでもあります。

協議の順番としては、日出はどういうふうなことをすればいいのですかということをお聞きしたら、まず場所がどこかということ、図面を引くにも、まず場所が違うとか使える面積がどのくらいなのか、そういった部分をぜひ概算設計とかするときも、まずそこが基本にないといけないと。

最後に、例えば現位置で消防の活動をしながら今の建物の強度を補強して、現位置で建物を増築してできる可能性があるのかという趣旨の質問をしたところ、建築の専門家じゃないですけども、山香の場合は土地があったから建物を建てることができた。今の場所ができたところを壊すという簡単だったんですけども、土地があったら日出のほうでそれが補強工事しながら救急とか消防の出動ができるように。その辺、よくまだ検討していないのでちょっと大変かなという最後この答弁を頂きました。

私は、よく取って日出町が土地さえ用意できれば即ち議論に入るという好意的な答弁だったというふうに捉えまして、今回この質問をさせていただいております。

そこで、事前に少しお話をさせていただいておりますが、現状のあの位置、あそこでの増築はどうでしょうか可能でしょうか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 現在、具体的な計画案がないので、はっきりと明言はできないんですけども、施設の拡大、山香の署を考えたら、やはり男女別の宿泊施設やお風呂等も必要になってきますし、あと駐車場の問題もあります。災害のときにあそこにおる職員が全員集まることを考慮いたしますと、現時点であの場所での増築は難しいのではないかとこのように思っております。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） なかなかあっちかこっちかになって難しいです。日出町が土地を用意すれば議論に入るのか、議論が先で消防組合のほうで場所等、金額等、先に協議をして進めて場所を選ぶのかということになるわけですが、現状、やっぱり広さが足りないということですね。新しい山香署でも宿直室がたしか10部屋ぐらいあるんですよ。山香出張所ですから、消防署としては規模は1.5倍ぐらいはなきゃいけないというふうに思っておりますので、当然今の土地では足りない。ただ宿泊施設を整備するだけであれば、上に強度がしっかりしていればできるわけですが、そこをできるかできないかということをお調べするのは、これから日出町であるのか消防組合であるのか、これは管理者もできるかもしれない、まだ専門じゃないので調べていないと、分からないということだったので、それはできるかできないかというのは日出町がする

のか、消防組合がするのか、どちらでしょう。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 今、議員の御質問のほうはまだ協議をしておりませんが、かなり難しい問題だと思うんですけども、場所が決まらなければ確かに図面は描けないけれども、図面がなければ場所も、広さを用意すればいいのかということも難しい。

ただ、今決まっているのは、場所に関しては自治体である日出町が確保すると、建設に関しては消防組合のほうで考えて、また議会も含めて建築をどのような形の施設にするかというのは、消防組合のほうで考えるというふうに思っております。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） なかなかどっちが先にするかというのは難しい問題なんですけど、先ほど申しあげました永松市長の答弁からすると、まず土地を用意しなさいと。これはもう率直な気持ちだと思う、土地を用意できるんですかと。土地を用意できれば、ある程度どのくらいの面積が要るかというのは、これから組合で話をしていくでしょうけれども。今後は、もし土地を確保するということになれば、例えばもう今の位置で消防活動をしながらというのは無理であれば、どっか別に土地を探して、そこを購入してということになるわけですが、適地としてはどこになるのでしょうか、どの辺り。

日出町は土地がもうあまりないですけども、消防署を造るとすれば土地の利便のいいところに確保しなければいけないということになるんで、その辺お考えはお持ちですか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） まず適地についてですが、消防署から緊急車両が安心でかつ迅速に出動する必要があります。そういったことを考えますと、基幹道路などに直結しているかあるいはその付近の場所が適地であるというふうに考えております。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） となると、もう10号線沿いなんですよ。あの近辺の10号線で考えれば、警察署、福祉センターがある藤原地区ということになるんですけど、どの程度の金額だったかというのは今答弁できますか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 面積等も関係ありますので、金額はこの場ではまだちょっと答弁できないです。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 組合で先に話をするのか、日出町内で煮詰めて組合に話を持つ

ていくのかということになるわけですが、町長現段階のお考えをお聞かせください。

○議長（工藤 健次君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 日出消防署の建て替えは、さっき財政課長が申しあげましたように、もう40年も経過しているというところと、施設が狭隘というところで、建て替えはもう避けられないというふうに思っております。

これからどう進めていくか、土地が先か設計が先かというような話でしょうけども、これは両方並行してどういう形の土地が要るのか、どの程度の面積が要るのか、今の課題をクリアするにはどのくらいの規模の施設をやらないと駄目なのか、そういったこともありますので、土地の場所については日出町が考えていかななくてはいけないでしょうけど、その中で組合のほうと一緒に考えていきたいというふうに思います。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 今後考えていく上で、やはり計画を立てないといけないと思うんですよね。40年が経過してこれから、法定耐用年数はまだあるんですが、建物自体の寿命としては耐震はクリアしていると思うんですけれども、鉄筋コンクリートが腐食——鉄筋が腐食する、コンクリートも年間たしか0.5ミリずつ中性化していって、最終的には鉄筋が腐食をしてということで強度がなくなっていくのは間違いない。メンテナンスをしっかりとすれば100年とか120年もつんですけれども、あと50年待つかと言ったらそうはいかないので。

機能的な問題もありますから、これはぜひ計画期間、今後5年間ととか3年間は無理でしょうから、5年間ぐらいをめどに計画を立てて、これは消防議会の議員としても全員で訴えていきたいと思うんですが。役場も町長も、この5年間でめどをつけるというふうな方向でぜひこれから動いていただきたいと思うんですが、期間を区切って3年、5年、それは可能ですかね、その意見を組合に持っていくということはどうでしょう、町長。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 土地の話は聞きましたけど、どの程度のものがかかるか、面積からして、さっき課長が申しました基幹道路、これはほぼ10号のことですけど、10号に面した地域に取得するといったときに、どれくらいの取得費用がかかるか等もありますので、まだ断定的に5年とかということは申しあげられませんが、ある程度スケジュール感を持って提案しないとやっぱり組合のほうも考えづらいところもあると思いますので、ちょっと内部で検討してみたいというふうに思います。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） そういうふうになると思うんですが、私もそういう考えでいたんですけれども、永松管理者のほうから、まず土地だよということをはっきりと明言されました

ので、日出町さん土地用意できるんですかと。財政厳しいでしょうということは言いませんでしたけども、土地を用意する準備はあるんだということをしっかり示してスケジュールをつくっていただきたい。

この後、公共施設等総合管理計画の質問をするんですが、本部を持っている市なんかは、消防施設については当然公共施設の耐震であるとか、更新であるとか、長寿命化についてうたっているんですね。組合にしているばかりに、この管理計画の中にはうたわれていないわけですよ。だからこそ、スケジュールができない。ただ今つくっている計画が、きっちりとしたスケジュールがあるかといったら決してそうではないというふうに見えるんですが、ぜひ、この総合管理計画の中に織り込むような形で当然資金も財源も要るわけですから、織り込んで考えていただきたい。

この件については、来週開催されます消防議会、組合議会でまた全員協議会で少しお話をしたいと思ひまして、私の今議員の任期中には方向をしっかりと出していきたいというふうな決意で、この質問をまた二回させてもらっていますので、来週の全協にはこの質問を述べたいと思っております。よろしく申し上げます。

それでは、割と早く終わりましたので、じっくりと公共施設等総合管理計画の改定について質問させていただきたいと思ひます。

まず通告どおり質問させていただきます。平成29年に策定された日出町公共施設等総合管理計画の策定の経緯、趣旨は、傍聴の方にも分かるようにお示してください。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 公共施設等総合管理計画につきましては、公共施設の老朽化対策が全国的な課題となる中、その老朽化対策を中長期的な視点から行うため、国からの策定要請を受けまして平成29年3月に日出町が策定したものであります。

計画の策定趣旨につきましては、町有施設全体像及び老朽化度合いを把握し、その対策に必要な経費を推計し、計画的かつ費用対効果の高い事業の実施に結びつけるために策定したものであります。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） それでは2番目、この計画を踏まえた施設別の具体的な取組、これまでどう進めてきましたか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） この計画を町が保有する公共施設等の維持管理、更新を含めた基本の方針を定めたものでありまして、具体的な取組につきましては、この計画とは別にそれぞれ

の施設ごとに個別施設計画を策定して行うこととなっております。

当町の計画策定以降の具体的な取組についてでございますが、例えば、町営住宅の外壁工事や町道の舗装工事などは、あらかじめ個別施設計画を策定して実施したものであります。長寿命化対策のいわゆる一例となっております。

しかしながら、財政上の理由から個別施設計画策定ができていない施設もございますので、本年度、令和4年度予算から重点施策としております公共施設マネジメントの推進を掲げ、個別計画の策定や公共施設整備基金への積み立ての開始などを本年度から取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 個別計画は議員に配布していただいたことありますか。

29年、さっきの、これは頂いたことあるんですが、個別の計画についてはオープンにしていな
いんでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 個別計画は、それぞれの公共施設を持っている課が作成をしておりますので、すみません、私のほうで議員の皆さんに配布しているかどうかちゅうのはちょっと把握をしておりません。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） あまり他の市町村と比較するのは嫌いなんですけど、他の市町村は経費であるとかスケジュールであるとか、これ10年間の計画期間で行っているところが主ですけれども、5年間で時点修正したりとか実績を反映させて計画の改定をしているというところがあるんですが、この計画は今後の方針とかいろいろ書いてあるんですけれども、予防保全という言葉が出てくるんですよね、予防保全。この予防保全でこれまで学校であるとか建物の耐震化には取り組んできていると思うんですけども、長寿命化するための予防保全については、これまで何か予算化してきたことはありますか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 既に先ほど申しました個別計画、施設設備計画、個別の施設計画ができているものについては、その計画に基づいて各課が要望してきたということになります。

なので、先ほど申しましたように、町営住宅の例えば外壁工事であったり防水工事などというのは、その個別施設計画を基に予算化したものになります。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） それでは、例えば午前中にも問題になっていましたけれども、

例えば小学校、特に川崎小学校、これいつの間にか建て替えという言葉が先走りして独り歩きしているような状況なんですけれども。例えば、教育部局で小学校の建て替えというようなことで個別計画というものが、個別計画を基にこれまで建て替えについて、これ川崎小学校に限らず大神小・中もそうですし、藤原小学校もこれもう40年を超えるわけですよ。その建て替えについて個別計画を基に議論されたことはありますか。

○議長（工藤 健次君） 教育総務課長、古屋秀一郎君。

○教育総務課長兼学校給食センター所長（古屋秀一郎君） 森議員の御質問にお答えいたします。

学校施設における個別の施設ごとの長寿命化計画につきましては、令和2年3月に策定しております。計画期間は、令和2年度から令和11年度の10年間となっております。

この長寿命化計画は、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、それから予算の平準化を実現しながら、学校施設の老朽化等の状況を把握し、長寿命化改修や改築等の方向性及び優先順位を設定し、長期的な施設整備の具体的方針、計画を示したものになります。

具体的の方針といたしましては、本町の厳しい財政状況におきまして、従来の建て替え、また改築を中心とした老朽化対策では、対応しきれない施設が増加すると思われまますので、改築や建て替えよりも工事費が安価で、建物を将来にわたって長く使い続けるために耐用年数を延ばすことを目的とした長寿命化改修への転換を図っていくという方針となっております。

ですので、先ほど森議員から御指摘のありました川崎小学校につきましても、この長寿命化計画の中では建て替えではなくて長寿命化を図るという方針で、今、計画を立てておる次第でございます。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 長寿命化という言葉は便利なんですけれども、先ほども言いましたが、どうしても寿命があるんですよ。例えば150年、小学校で使うのかと言えばそうはいかないので、結局この国から見直しの通知が来ているわけですよ。本来であればもう昨年度中には多くの自治体で改定をしているわけですよ。今までの実績も含めて、今からのことも含めて全部改定をしているわけなんですけれども。

これから計画をつくる中で、ぜひそういったことも含めて長寿命化でメンテナンスだけすればいいんだと。そのメンテナンスした後に、強度がどうであるとか、何年長寿命化するんだとかいう数値というのはなかなか信頼できない部分もあるんですよ。寿命については50年というところもあれば、本によると120年、150年とかあるので、その辺も含めて、しっかり学校については、全て長寿命化で、もう改築しない、新しく造らないという話にはならないと思うんですよ。

そこは財政を抜きにして、教育部局のほうで意見を財政のほうにしっかりとと言わなきゃいけないと思うんですけど、今一番問題なのは恐らく川崎小学校でしょう。これそのまま長寿命化ですっていくということですか、それ。新たな意見はやはりどんだんぶつけていかないと思うんですけども、どうでしょう。

○議長（工藤 健次君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼学校給食センター所長（古屋秀一郎君） 議員の御質問にお答えいたします。

ただいま川崎小学校の事業につきましては、教育総務課と都市建設課の建築系のほうで、事業実施に向けた問題点の整理、それからスケジュールについて検討を行っております。

また、近隣市町村で現在行われている長寿命化事業の内容についても、現地を視察してどのような事業を行っているのかを確認しながら、日出町の方向性も考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 分かりました。

それでは、川崎小の改築を考えていないと、現時点では全く考えていないと言っているんですか。

○議長（工藤 健次君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼学校給食センター所長（古屋秀一郎君） 議員御指摘の川崎小学校は、確かに建物も古くて今狭いという状況があります。

長寿命化事業につきましては、建物の躯体、柱、壁、そういうものはそのままの状態、外壁、内装等を改修する工事となっておりますので、今の現状のままでそういう工事をして、将来それでいいのかというのは、当然検討する余地は十分あると考えておりますので、検討の内容によっては、当然、改築も建て替えも考えていかないといけないとは思っております。

以上でございます。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） まあ、そういうふうに答弁しといたほうがいいと思います。

（笑声）

ほかにも大神中学校が、これもう今年で39年、小学校、あとは藤原が42年、2つありますよね。順次、やっぱりその計画ですから、こういったもの全て考えながら新しいものを計画を、実行可能な計画をぜひつくっていただきたいと思います。

それから、ちょっと個別の案件ではありますが、この計画に乗っている、まずは消防機庫が恐らく耐震診断してないんですよね。建築年数が不明なものが2件あって、昭和56年の建築基準法の改正で耐震基準が新基準になる前に建てられた消防機庫が3件あるんですよね。これはゆゆし

きことで、災害、震度6、7の地震が来たときに、これまず倒壊するおそれがあるわけですね。

この5件については、どこのどれだというふうなことは申し上げませんが、ぜひ検討していただきたい、耐震補強するなり、それと併せて当委員会の所管でいろいろな不備があるところもあるので、ぜひこの5か所を含めて耐震調査を行って建て替えるか耐震補強をするかということをご検討していただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 担当課のほうと協議をいたしまして、耐震調査ができるかどうかのほうの協議をしていきたいというふうに思っております。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 建物は旧耐震基準であっても新耐震基準を満たすような建物もあるんですね。以前に耐震の審査を調査をしたところも再度怪しいところは、もう月日が流れておりますので調査をして、もし耐震基準を満たしていないものがあれば即刻予算措置をして、建て替えるなり補強するなりということをご、その計画に織り込んでいただきたいと思っております。

それと併せまして、耐震の調査が済んでおりますが的山荘についても、これも以前から問題になっておりますが、いずれはやらなきゃいけないと思っております。的山荘については、金額がやっぱり桁違いになるということが予想されます。ただ、桁違いの予算がかかるから、いつまでもこれから10年、20年やらないということになれば、やはり災害が、地震が起きたときに倒壊して犠牲者が出るというようなことになっては困るので、それも含めて、例えば指定管理の契約が終わった段階で何らかの措置を取るとかということも含めて、今後10年間のスパンで計画をしっかり立てていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか、的山荘に関して。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） 2年前でしたか、文化庁のほうと所管の担当課と私のほうとで協議をさせていただいて、そのときは行財政改革期間中であつたということで、令和7年度までは改築に関しては待っていただきたいということで御了承いただいたところでございます。行革期間中でありまして令和7年度終了後、令和8年度に向けてできることを、当然令和7年度ぐらいからそういった計画も含めたところの協議を始めようというふうには考えているところであります。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） なかなか難しいことだと思いますけれども、いつか決断をして手をつけないといけない事案でありますから、令和7年度以降ということは今回改定する計画期間の中にも入ってくるわけですから、それを織り込んだ上で策定をして、議会のほうに示していただきたいと思っております。

それから、午前中にも質問がありましたが、財源についてということをご、まだ少し時間があり

ますので触れたいと思います。

午前中の答弁で、公共施設整備基金についても今年度から5千万上がっていますので、令和7年度まで3億というお話がありました。それから、まちづくり基金についても、施設の適切な管理のために使うことができるように条例改正を考えたいというお話でしたが、再度まちづくり基金の条例について、これも今年度は当たりませんか、今年度というか近々、条例については改正を計画しませんか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） まちづくり基金については目的の中で、例えば教育設備であるとか、目的の中に入っておりますので、使用の目的として条例を当たらずとも活用できるのではないかとこのように考えているところです。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） ただ、特定目的基金の示されている使用目的の中には、これ基金入っていましたっけ、公共施設整備基金5千万という項目がありましたっけ。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） まちづくり基金を公共施設整備基金に積み立てるのではなく、まちづくり基金をそのまま教育施設の整備等に活用するという意味であります。公共施設整備基金は公共施設整備基金で、例えば役場の本庁舎等の改築にはまちづくり基金は使えませんので、公共施設整備基金はほかの例えば昨年度改正しましたので、まちづくり基金は防災の関係には活用できますので、先ほど議員おっしゃったような消防機庫の施設整備とかには活用できるものかなというふうには考えています。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） 前にも言ったことがありますけれども相関性があるので、例えば今年度の予算にしてみれば財政調整基金3億5,500万円入れますよね。減債基金が2億入れますよね。まちづくり基金から2億5千万円。公共施設整備基金がプラス5千万円。これも、ぶっちゃけると悪いんですけど、これどこをどうやるかというのを組み合わせじゃないですか。

○議長（工藤 健次君） 財政課長。

○財政課長（白水 順一君） その基金の目的に沿った活用の仕方をさせていただきたいと思えます。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） なかなかそれを理解するのは難しい。数字を操作しながら一生懸命やっていると思うんですが。ただ、今後財政が苦しくなっても公共施設整備基金の5千万円については、必ず積み立てていくということは守っていただきたい。これだけ110億超えるよ

うな予算を組めば、まちづくり基金についても毎年2億5千万持ってこなければ、恐らく予算が成り立たないというような状況になっていると。年度終わってこれだけの基金を取り崩しているかと、決してそうじゃないと思うんですが、公共施設整備については、先ほどの消防の土地も含めて建築すれば3億じゃ済まない、4億ぐらいかかると思うので、建築費の4割くらいは負担金で出ていきますから、苦しくても公共施設整備基金を積み立てていくということにさせていただきたいというふうに思っています。

町長、公共施設等総合管理計画について、何か御所見があれば最後をお願いします。

○議長（工藤 健次君） 町長。

○町長（本田 博文君） 公共施設の管理総合計画は、これから年に単純計算だったら20億ほど突っ込んでいかなければならないという計画でありましたけれども、そのくらい公共施設の管理に大きなお金が将来かかっていくという推計が出ています。

長寿命化等で持続可能な財政運営ができるようにしっかり図っていく必要があるという、そのための計画でありますので、着実に守る中で長寿命化に図っていきたいというふうに思っています。

○議長（工藤 健次君） 森昭人君。

○議員（14番 森 昭人君） ぜひ横断的な協議をして実行可能な計画をつくっていただきまして、その中で必要な財源を確保して必ず実行していただきたいと思っております。

併せて、計画の中には、先ほど申し上げましたように耐震基準を満たしていないような建物もあるわけですから、そこをしっかりと押さえて今後、改築なりメンテナンスなりしていただくように、しっかりとこれはお願いをしておきますのでお願いします。

それでは、最後になりますけれども、今年度をもって退職をされます4名の課長、白水課長、帯刀課長、それから阿南課長、佐藤課長には長年にわたりまして日出町の発展、また福祉向上のために御尽力を頂きましたこと心から敬意を表するところであります。

特に帯刀課長、公共施設じゃないですけれども、センターの件ではだいぶ苦勞されて、私も側で見ておりましたけれども大変お疲れさまでした、ありがとうございます。

それから今日、全て答弁していただきました白水課長におかれましては、今後、丁々発止の議論ができなくなるのは大変寂しいんですけれども、在職36年ですか、課長補佐で2年、課長で5年、7年の長きにわたりまして財政畑を、財政をしっかり見守っていただきましたことについて心から敬意を表するところであります。

以上で質問を終わります。

○議長（工藤 健次君） これで一般質問を終わります。

散会の宣告

○議長（工藤 健次君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（工藤 健次君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれにて散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

午後 2 時 16 分散会
